

經常部合計金貳百圓六拾八錢五厘
歲入總計金貳百圓六拾八錢五厘

歲出

經常部

第三款 市郡分賦郡部負擔額 金七百五拾九圓四拾貳錢

第一項 市郡分賦郡部負擔額 金七百五拾九圓四拾貳錢

經常部合計金七百五拾九圓四拾貳錢

歲出總計金七百五拾九圓四拾貳錢

明治三十五年度東京府郡部歲入歲出決算書……………承認

府費支辨若クハ補助道編入及廢止取調ニ關スル決議案……………可決

(決議の大要) 交通機關の發達及地方盛衰狀況等の關係上、現在町村道にして府費支辨若くは府費補助道に編入を要するものあり、又之と反對に現在府費支辨若くは府費補助道にして、其の府費支辨若くは府費補助を廢止するを適當と信せらるるものもあるを以て、理事者に於て篤と調査の上、明年の通常會迄に提案を要望す

るといふ趣旨であつて、決議案は多數を以て可決した(議員井田忠信發議)。

第七節 明治三十七年の府會

臨時府會

本會は、明治三十七年三月七日午後一時二十五分に開會し、即日議事終了を告げ午後三時十八分閉會した。

開會に際し知事男爵千家尊福は、次の開會辭を述べた。

〔諸君 本日ヲ以テ臨時府會並ニ市部會郡部會ヲ開キマス、本會ニ提出スル議案ハ目下ノ時局ニ鑑ミテ、三十七年度ノ豫算ニ對シテ地方經濟ヲ緊縮スルノ必要ヲ感シマシテ、茲ニ更正案並ニ使用料等ノ變更ニ關スル案ヲ提出イタシマシテコサイマス、是等ノ案ニ付イテ御審議ノ上適當ノ決議アラムコトヲ望ミマス(明治三十七年府會速記録)〕

齋藤議長は、次の諸件を報告した。

官發第三〇號

來ル三月七日ヨリ開會ノ第一回臨時府會市部會郡部會ノ議事參與員別紙ノ通ニ有之候此段及通牒候也

明治三十七年二月二十九日

東京府知事

男爵 千家尊福

男爵 千家尊福

東京府會議長 齋藤孝治殿

(別紙)

東京府書記官 山田新一郎

東京府參事官 鈴木邦義

東京府視學官 岡五郎

東京府屬 鷺見金三郎

東京府屬 山川省

府縣制第四十九條ニ依リ明治三十七年第一回臨時府會市部會郡部會ノ議事參與ヲ命ス

警視 川上親晴 警視屬 長澤誠之助

警視廳技手 大富達丙 警視屬 矢吹權

府縣制第四十九條ニ依リ明治三十七年第一回臨時府會市部會郡部會ノ議事參與ヲ囑託ス

一發第一二〇號

府會議員左記ノ者退職候ニ付此段及通知候也

明治三十七年三月五日

東京府知事

男爵 千家尊福

男爵 千家尊福

東京府會議長 齋藤孝治殿

小林一生

官發第三〇號ノ二

官發第三〇號ヲ以テ及通牒置候議事參與員中東京府參事官鈴木邦義轉任ニ付更ニ左記ノ通相命シ候條此段及通牒候也

明治三十七年三月七日

東京府知事

男爵 千家尊福

男爵 千家尊福

東京府會議長 齋藤孝治殿

東京府參事官

澤田牛麿

府縣制第四十九條ニ依リ明治三十七年第一回臨時府會市部會郡部會議事參與ヲ命ス

この臨時府會は、知事の開會辭にもあつた如く、時局に鑑みて地方經濟を緊縮するの必要を感じ、既定豫算の更正案等を付議する爲め招集せられたものであるが特に、議員杉原榮三郎は、今や日露の國交斷絶して干戈を交ふるに至り、其の事態の重大なること、振古未曾有の國難である。斯秋に當りて帝國臣民たるものは、宜し

く舉國一致殉難の誠を盡して、戦闘の後援をせなければならぬ。而して、府會議員及名譽職參事會會員費用辨償額は、其の支給金額は些々たるものなるも、目下の事態に顧みて、戦時中之を廢止若くは削減するのは事宜に適したる措置と認むるから、理事者は、該辨償額及其の支給方法の改正案を提出せられんことを望むとの建議案を發議したところ、全會一致を以て可決した。又齋藤議長は、重大なる時局に處するため、政府に於ては目下國債募集中であるから之れが應募方に關し曩に知事からも各方面へ、依頼狀を發せられた次第である。就ては、議員各位に於ては奮つて應募せらるゝは勿論、應募勸誘に付ても充分努力援助せられたいと特に希望を述べたが、時局重大の際として、流石に議場の光景は緊張味を呈した。議長は、副議長小林一生が府會議員辭職のため、副議長の補闕選舉を行つて、田村光顯が當選した。

終りに議長は、會議の同意を得て、杉原榮三郎、中村平三郎を會議録署名議員に選定した。

議案 附建議案

府臨第一號議案 明治三十七年度東京府歳入歳出更正豫算書……………修正

府臨第二號議案

使用料増額議決變更ノ件……………可決
 府會議員名譽職參事會會員費用辨償額及其ノ支給方法中改正ヲ求ムル建議案……………可決

議決摘要

府臨第一號議案 明治三十七年度東京府歳入歳出更正豫算書……………修正

	歳入	經常部
既定豫算高	金四萬五千五百六拾參圓八拾錢四厘	
第二款 國庫下渡金	金參萬千五百八拾五圓八拾錢四厘	
既定豫算高	金四萬五千五百六拾參圓八拾錢四厘	
第一項 警察費下渡金	金參萬千五百八拾五圓八拾錢四厘	
既定豫算高	金拾壹萬六千四百七拾七圓貳拾五錢四厘	
第三款 雜收	金拾萬九千四百八拾六圓六拾五錢四厘	

既定豫算高 金參萬六百六拾圓

第二項 藥價及入院料 金貳萬參千六百六拾九圓四拾錢

既定豫算高 金六拾五萬七千貳百五圓四拾參錢貳厘

第四款 市郡分賦額 金五拾萬八千四拾參圓五拾五錢七厘

(修正)金五拾萬九千參百四拾參圓五拾五錢七厘

既定豫算高 金六拾五萬七千貳百五圓四拾參錢貳厘

第一項 市郡分賦額 金五拾萬八千四拾參圓五拾五錢七厘

(修正)金五拾萬九千參百四拾參圓五拾五錢七厘

(修正理由) 歳出ノ修正ニ伴ヒ修正ヲ要スルニ由ル

既定豫算高金八拾參萬八百六拾六圓四拾九錢

經常部合計金六拾六萬七千參百六拾六圓壹錢五厘

(修正)金六拾六萬貳千參百六拾六圓壹錢五厘

臨時部

既定豫算高 金貳萬九千百貳拾圓九拾錢

第二款 財產賣拂代 金〇

既定豫算高 金貳萬九千百貳拾圓九拾錢

第一項 不動產賣拂代 金〇

既定豫算高金參萬貳千參百八拾壹圓參錢六厘

臨時部合計金參千貳百六拾圓拾參錢六厘

既定豫算高金八拾六萬參千貳百四拾七圓五拾貳錢六厘

歳入總計金六拾六萬參千九百九拾六圓拾五錢壹厘

(修正)金六拾六萬五千貳百九拾六圓拾五錢壹厘

歳出

經常部

既定豫算高 金六萬貳千六百八拾五圓六拾貳錢八厘

第三款 土木費 金四萬五千四百六拾圓參拾六錢貳厘

既定豫算高 金六萬貳千四百參拾五圓六拾貳錢八厘

第二項 治水堤防費 金四萬五千貳百拾圓參拾六錢貳厘

既定豫算高 金九萬九千貳百拾六圓七拾七錢五厘

第五款 衛生及病院費 金九萬九百六拾九圓七拾壹錢

- 既定豫算高 金七萬六千七百貳拾五圓貳錢五厘
- 第二項 巢鴨病院費 金六萬八千四百七拾七圓九拾六錢
- 既定豫算高 金貳拾四萬千七百九拾八圓四拾壹錢
- 第六款 教育費 金貳拾參萬參百拾四圓四拾壹錢
- 既定豫算高 金貳萬九千參拾六圓貳拾貳錢
- 第九款 勸業費 金貳萬參千五拾參圓七拾貳錢
- 既定豫算高 金六千六百九拾壹圓五拾錢
- 第一項 勸業會費 金七百九圓
- 既定豫算高 金參萬四千九拾八圓五錢
- 第十款 府吏員費 金貳萬五千貳百九拾五圓五拾五錢
- 既定豫算高 金參萬四千九拾八圓五錢
- 第一項 府吏員費 金貳萬五千貳百九拾五圓五拾五錢
- 既定豫算高金六拾四萬四百六拾九圓六拾貳錢五厘
- 經常部合計金五拾八萬八千七百貳拾八圓貳拾九錢四厘

臨時部

- 既定豫算高 金參萬四千九百四拾五圓
- 第一款 警察廳舍建築費 金〇
- 既定豫算高 金參萬四千九百四拾五圓
- 第一項 建築費 金〇
- 既定豫算高 金五萬四千五拾七圓八拾參錢壹厘
- 第二款 土木費 金參萬六千參百六拾圓七拾五錢七厘
- 既定豫算高 金五萬參千四百九拾九圓八拾參錢壹厘
- 第二項 治水堤防費 金參萬五千四百五拾貳圓七拾五錢七厘
- 既定豫算高 金六萬四百六拾壹圓六拾五錢
- 第四款 教育費 金貳萬四千五百拾六圓拾錢
- 既定豫算高 金貳千圓
- 第五款 教育補助費 金〇
- (修正)金千參百圓
- 既定豫算高 金貳千圓
- 第一項 教育補助費 金〇

(修正)金千參百圓

(修正理由) 府財政緊縮ノ折柄補助費ヲ廢止セントスルハ理由アルカ如キモ一面ニ於テ教育ノ振興ヲ圖ルハ亦忽諸ニ付スヘカラサル事ナルヲ以テ從來ノ補助額ニ對シ幾分ノ減額ヲ加ヘ相當金額ヲ引續キ補助スルモノトシ東京府教育會ニ對シ從來千五百圓補助セシヲ千圓トシ體育會ニ對シ從來五百圓補助セシヲ參百圓トシ合計千參百圓ヲ補助セントスルニ由ル(議員杉原榮三郎動議)

既定豫算高 金五萬六千九百貳拾貳圓四拾貳錢

第八款 衛生及病院費本年度支出額 金〇

既定豫算高 金五萬六千九百貳拾貳圓四拾貳錢

第一項 巢鴨病院費本年度支出額 金〇

既定豫算高金貳拾萬貳千七百七拾七圓九拾錢壹厘

臨時部合計金七萬五千貳百六拾七圓八拾五錢七厘

(修正)金七萬六千五百六拾七圓八拾五錢七厘

既定豫算高金八拾六萬參千貳百四拾七圓五拾貳錢六厘

歲出總計金六拾六萬參千九百九拾六圓拾五錢壹厘

(修正)金六拾六萬五千貳百九拾六圓拾五錢壹厘

府臨第二號議案 使用料増額議決變更ノ件……………可決

東京府立巢鴨病院入院料増額議決中施行ノ期限ヲ削ル

(註) 本文に施行の期限云々とあるは、明治三十七年度より施行の旨議決せるを指す。故に、施行期限を撤廢して、即時改正額を以て實施するのである。

府會議員名譽職參事會員費用辨償額及其ノ支給方法中改正
ヲ求ムル建議案……………可決

(建議の大意) 今や時局重大の際として、舉國一致殉難の誠を盡すべき秋である。我々府會議員及名譽職參事會員の費用辨償額を、戦時中之を廢止若くは削減するのは事宜に適する措置と信ずるから、該辨償額及其の支給方法改正案を提出せられたき旨、知事に建議せんとするものである。右は全會一致を以て其の可決を見た(議員杉原榮三郎發議)。

臨時市部會

本會は、明治三十七年三月七日午後三時四分に開議し、即日議事終了を告げ、午後

三時七分散會した。

杉原議長は、會議の同意を得て、酒井泰齋、藤鐵太郎を會議録署名議員に選定した。

議案

市部 臨第一號議案 明治三十七年度東京府市部歳入歳出更正豫算書……修正

議決摘要

市部 臨第一號議案 明治三十七年度東京府市部歳入歳出更正豫算書……修正

歳入

經常部

既定豫算高 金拾六萬貳千六百圓

第一款地租割 金八萬千參百圓

既定豫算高 金拾六萬貳千六百圓

第一款地租割 金八萬千參百圓

(地租壹圓二付參拾錢)

既定豫算高 金貳拾六萬四千九百七拾圓

第五款家屋稅 金貳拾壹萬千九百七拾六圓

既定豫算高 金貳拾六萬四千九百七拾圓

第一款家屋稅 金貳拾壹萬千九百七拾六圓

(二個二付壹錢六厘)

既定豫算高 金參拾七萬參千九百八拾六圓參拾四錢四厘

第七款國庫下渡金 金參拾五萬四千九百拾九圓拾四錢四厘

既定豫算高 金參拾七萬參千九百八拾六圓參拾四錢四厘

第一項警察費下渡金 金參拾五萬四千九百拾九圓拾四錢四厘

既定豫算高 金拾六萬八千五百九拾七圓七拾五錢四厘

第九款市郡連帶市部收入額 金拾貳萬七千八百八拾六圓五拾四錢七厘

既定豫算高 金拾六萬八千五百九拾七圓七拾五錢四厘

第一項市郡連帶市部收入額 金拾貳萬七千八百八拾六圓五拾四錢七厘

既定豫算高金百六拾七萬六千四百拾壹圓五錢七厘

經常部合計金百四拾七萬五千八百六拾八圓六拾五錢

臨時部

既定豫算高 金百圓

第一款繰越金 金五千百圓

既定豫算高 金百圓

第一項 繰越 金 金五千百圓

既定豫算高金壹萬參百四圓貳拾五錢七厘

臨時部合計金壹萬五千參百四圓貳拾五錢七厘

既定豫算高金百六拾八萬九千九百四拾五圓參拾壹錢四厘

歲入總計金百四拾九萬千七百七拾貳圓九拾錢七厘

歲出

經常部

既定豫算高 金六拾貳萬七千四百九圓四拾錢六厘

第八款 市郡分賦市部負擔額 金四拾八萬八千貳百七拾六圓參厘

(修正)金四拾八萬九千六拾九圓參厘

既定豫算高 金六拾貳萬七千四百九圓四拾錢六厘

第一項 市郡分賦市部負擔額 金四拾八萬八千貳百七拾六圓參厘

(修正)金四拾八萬九千六拾九圓參厘

(修正理由) 聯帶豫算ノ修正ニ伴フニ由ル

既定豫算高金百六拾壹萬五千七百八拾八圓六拾錢六厘

經常部合計金百四拾七萬六千六百五拾五圓貳拾錢參厘

(修正)金百四拾七萬七千四百四拾八圓貳拾錢參厘

臨時部

既定豫算高 金四萬七千六百六拾八圓

第三款 警察廳舍建築費本年度支出額 金〇

既定豫算高 金四萬七千六百六拾八圓

第一項 警察廳舍建築費本年度支出額 金〇

既定豫算高金五萬八千百參拾四圓

臨時部合計金壹萬四百六拾六圓

既定豫算高金百六拾七萬參千九百貳拾貳圓六拾錢六厘

歲出總計金百四拾八萬七千九百貳拾壹圓貳拾錢參厘

(修正)金百四拾八萬七千九百拾四圓貳拾錢參厘

臨時郡部會

本會は、明治三十七年三月七日午後三時七分に開議し、即日議事終了を告げ、午後三時十六分散會した。

議長は、會議の同意を得て、井上吉之助、谷岡慶治を會議録署名議員に選定した。

議案

郡部
臨第一號議案

明治三十七年度東京府郡部歳入歳出更正豫算書………修正

議決摘要

郡部
臨第一號議案

明治三十七年度東京府郡部歳入歳出更正豫算書………修正

歳入

經常部

既定豫算高 金貳拾四萬貳千四百拾八圓

第一款地租割 金拾四萬六千九百貳拾圓

既定豫算高 金貳拾四萬貳千四百拾八圓

第一款地租割 金拾四萬六千九百貳拾圓
(地租壹圓二付四拾錢)

既定豫算高 金六萬五千七百拾貳圓九拾四錢

第五款家屋稅 金四萬八千六百九拾六圓七拾九錢六厘

既定豫算高 金六萬五千七百拾貳圓九拾四錢

第一款家屋稅 金四萬八千六百九拾六圓七拾九錢六錢
(八王子町分四三、一九六圓餘其他ノ各町村一個ニ付參錢四厘)

既定豫算高 金九萬貳百參拾七圓八拾四錢

第六款戶數割 金六萬八千參百六拾貳圓

既定豫算高 金九萬貳百參拾七圓八拾四錢

第一項戶數割 金六萬八千參百六拾貳圓
(二戶ニ付壹圓)

既定豫算高 金參萬七千四百四拾四圓參拾四錢

第十款市郡連帶郡部收入額 金貳萬七千四百四拾四圓參拾四錢

既定豫算高 金參萬七千四百四拾四圓參拾四錢

第一項市郡連帶郡部收入額 金貳萬八千七百六拾六圓四錢七厘

既定豫算高 金七拾五萬參百七拾五圓壹錢六厘

經常部合計金六拾萬七千參百六圓七拾參錢九厘

臨時部

既定豫算高 金壹萬五千圓

第一款 繰越金 金參萬圓

既定豫算高 金壹萬五千圓

第一項 前年度繰越金 金參萬圓

既定豫算高金壹萬八千參百圓

臨時部合計金參萬參千參百圓

既定豫算高金七拾六萬八千六百七拾五圓壹錢六厘

歲入總計金六拾四萬六千六百六拾參錢九厘

歲出

經常部

既定豫算高 金拾五萬八千八百七拾壹圓六拾五錢五厘

第三款 土木費 金拾壹萬七千七百七拾圓四錢六厘

既定豫算高 金拾四萬七千貳百拾參圓四拾壹錢

第一項 道路橋梁費 金拾壹萬七拾八圓七拾錢

既定豫算高 金壹萬千六百五拾八圓貳拾四錢五厘

第二項 治水堤防費 金七千六百九拾壹圓參拾四錢六厘

既定豫算高 金貳拾參萬五千八百參拾八圓拾貳錢

第三款 市郡分賦郡部負擔額 金拾七萬五千七百貳拾圓拾四錢八厘

既定豫算高 (修正)金拾七萬六千貳百貳拾七圓拾四錢八厘

第一項 市郡分賦郡部負擔額 金貳拾參萬五千八百參拾八圓拾貳錢

(修正)金拾七萬六千貳百貳拾七圓拾四錢八厘

既定豫算高金六拾六萬四千四百九拾七圓貳拾壹錢四厘

經常部合計金五拾六萬貳百七拾七圓六拾參錢參厘

(修正)金五拾六萬七百八拾四圓六拾參錢參厘

臨時部

既定豫算高 金參萬八千八百七拾四圓

第二款 土木費 金貳萬五百五拾圓貳拾錢

既定豫算高 金參萬四千四百圓

第一項 道路橋梁費 金壹萬七千四百八拾六圓貳拾錢

既定豫算高 金四千四百七拾四圓

第二項 治水堤防費 金參千六拾四圓

既定 豫算高 金貳萬七千八百貳拾七圓拾錢

第三款 郡市町村土木補助費 金貳萬千八百七拾六圓

既定 豫算高 金壹萬貳千九百貳拾參圓七拾參錢

第三項 入樋費補助 金六千九百七拾貳圓六拾參錢

既定 豫算高 金貳萬四千五百參拾壹圓

第九款 土木費本年度支出額 金貳萬千九百九拾壹圓

既定 豫算高 金貳萬四千五百參拾壹圓

第一項 道路橋梁費本年度支出額 金貳萬千九百九拾壹圓

既定 豫算高金拾萬五千九百拾六圓拾錢

臨時部合計金七萬八千參百壹圓貳拾錢

既定 豫算高金七拾六萬七千四百拾參圓參拾壹錢四厘

歲出總計金六拾參萬八千五百七拾八圓八拾參錢參厘

(修正)金六拾參萬九千八拾五圓八拾參錢參厘

通常府會

本會は、明治三十七年十一月二十五日午後一時三十七分に開會し、會議六日間に
渉り、十二月十六日午後三時三十六分議事終了閉會した。

開會の當初、知事男爵千家尊福は、次の開會辭を述べた。

「諸君 本日ヲ以テ通常府會並ニ市部會郡部會ヲ開キマス、本會ニ提出スル議案ハ三十八年
度歲入歲出豫算、其他ノ議案並ニ諮問案ヲ提出イタシマシタ、デ各議案ヲ提出スル理由ハソ
レソレノ議案ニ添附シタル説明カアリマスカラソレニ讓ツテ茲テハ省略イタシテ置キマ
ス、來年度ニ於キマシテモ本年度ト同様ニ種々節約ヲ加ヘマシタ次第テハアリマスカ、唯土
木警察、教育、勸業等ニ付キマシテハ必要已ムヲ得ナイモノト認メマシタモノニ限ツテ本年
ノ更正豫算ヨリハ増加シタ豫算ヲ提出イタシマシタヤウナコトテ、是ハ最モ必要已ムヲ得
ナイモノト認メマシタカラ提出イタシマシタ次第テアリマス、又本年ハ七月以降水害ニ罹ツ
テ、ソレカ爲ニ復舊工事ヲ要スルモノモアリマシテソレニ對スル豫算、其他追加ノ必要アル
モノモアリマシタテ議案ヲ提出致シ置イタヤウナ次第テアリマスカラ宜シク御審議ノ上
適當ノ決議アラムコトヲ望ミマス(明治三十七年府會速記録)」

齋藤議長は開議の當初に、次の事項を報告した。

官發第二一八號

來ル二十五日ヨリ開會ノ通常府會市部會郡部會ノ議事參與員別紙ノ通ニ有之
候條此段及通牒候也

明治三十七年十一月二十二日 東京府知事 男爵 千家 尊 福
東京府會議長 齋藤 孝 治 殿

(別紙)

東京府書記官	山田 新一郎	東京府參事官	澤田 牛麿
東京府視學官	岡 五郎	東京府屬	鷺見 金三郎
東京府屬	竹内 順吉	東京府屬	久保 義三郎
東京府屬	澁谷 元良	東京府屬	山川 省
東京府屬	佐藤 襄	東京府技手	王 供 阿久
東京府技手	土屋 直一		

府縣制第四十九條ニ依リ明治三十七年通常府會市部會郡部會ノ議事ニ參與ヲ命ス

警視	川上 親晴	警視廳技師	奥貫 恭助
警視屬	長澤 誠之助	消防士	寶田 通經
警視廳技手	大富 達丙	警視廳警部	森 英雄
警視屬	田村 炸次郎	警視屬	矢吹 權

府縣制第四十九條ニ依リ明治三十七年通常府會市部會郡部會ノ議事ニ參與ヲ囑託ス
議長は、會議の同意を得て、中村平三郎、杉原榮三郎を會議錄署名議員に選定した。

この會議に於て、特筆を要する事項は、次の諸件である。

一 追加豫算の議決

府第二十號議案として提出になつた、三十七年度追加豫算(水害復舊土木費參萬六千五百餘圓、之ニ伴フ府吏員費七百餘圓、教育費參萬貳百餘圓)に對しては、時局緊縮を要するとの理由で、今春の臨時府會に於て既定豫算の更正案を議決し、爾後僅かに數ヶ月を經過せるに過ぎない今日に於て、斯くの如く相當巨額に上ぼる追加豫算の提出せられたのは、緊縮の主旨に反するものとして、議員中異論を唱ふるもの多く、當局に對する質問が續出し、就中教育費に對しては、議員杉原榮三郎から峻烈な質問が發せられたが、結局、五名の調査委員に附託調査せしむることとなつた。調査委員は、杉原議員を委員長として審議の結果、原案を可決すべきものと議決した。しかし本會議に於て杉原委員長は、特に知事以下參與員の列席を要求して、委員會議決の趣旨を報告した。即ち、軍國多事、公私共に費用を節して軍費の供給に

資せんとする今日に於て、突如追加豫算を發して更に府民の負擔を加重せられんとするが如きは、決して當を得たる方途ではない。又土木費の如きも、今日迄破損の儘経過したこと故、今後三ヶ月を猶豫し、新年度開始の曉に何とか施工の方法を講ずることも出来るかと考へ、理事者に再考を求めた。然るに、治水堤防の工事は冬期を以て最も適當とし、自然工費も低廉であるとの理由で、切に辨明に努めたので、原案を是認するに至つた。又教育費に關しても、此の際追加せずとも、此處三ヶ月後に於ける新年度の開始を待たれぬ筈はない。殊に精神病者の如きは、府立巢鴨病院へ尙多數の公費患者を收容することが出来る筈であるのに、私費患者多數收容の結果自然公費患者は、私立代用病院へ收容するの餘儀なきこととなり、追加を要するに至つたことゝ信ずる。元來巢鴨病院は管理が行届かぬといふので、委員會に於て非常に議論が沸騰し、この追加豫算も、理事者が今後十分注意を拂ふべきことを誓ひ切に希望する所があつたので之を諒とし、該病院に對する革正改良の希望を附して原案を是認した次第である云々といふにあつた。この委員長の報告に對し、番外千家知事は、委員長報告の趣旨は具さに承せり。殊に巢鴨病院の事に就ては、管理上一層の注意を拂ふべく、議員諸君も今後に於て、見聞の事あらば

遠慮なく忠告せられたい云々と陳べ、會議に於ては、委員會の周到なる審議と、理事者の苦衷とを諒として、結局原案を可決した。

二 府會議員名譽職參事會費用辨償額廢止に關する件

福田又一は、本年三月臨時府會に於て、標記の件を建議したるに對し、無論この通常會に該費用辨償額及支給方法改正案の提出あるべきを期したるに、其の提出なきは如何なる理由であるか、答辯を望むと要求した。之に對し、番外山田書記官は「曩に府會よりの建議の精神を諒とし、種々と研究を重ね、たとひ全廢するものとして規則を改正するとも、内務省が之を許可せざる意向なることを確かめ得たので、遺憾ながら發案を見合せた」と答辯したが、尙ほこの件に關して、福田、杉原兩議員の間に論議の應酬あり、結局千家知事から開會の劈頭に於て、發案を見合せたる理由を報告せざりしは、遺憾とするところであると述べ、滿場之を諒として本問題は終了した。

三 天機奉伺出征軍に對する感謝狀傷病歸還兵慰問の決議

議員袴田瀧三郎は、時局に際し、聖上陛下には日夜宸襟を惱まさせらるゝは、臣民として恐懼措く能はざるところである。依て、議長を以て、天機を奉伺致した

いと發議し滿場一致を以て謹んで之を可決した。

天機奉伺書は次の通で齋藤議長は參内して之を捧呈した。

東京府會議長 臣 孝治再拜謹テ案スルニ征露ノ舉ハ實ニ曠古未有ノ大業而シテ宇内空前ノ偉事タリ伏テ惟ルニ

陛下聖德廣大允文允武内ハ則チ閣臣ヲ率ヒ以テ益々國容ヲ正クシ外ハ則チ閭臣ヲ督シ以テ愈々軍容ヲ肅フ其時艱ヲ處シ而シテ大局ヲ制スルコト綽々トシテ餘裕アリ

陛下宵旰焦勞惕若振勵シ給フニ非スンハ何ソ能ク此コニ臻ラムヤ此レ臣民ノ均ク瞻仰恐懼シテ措ク能ハサル所ナリ茲ニ府會ノ決議ヲ經恭シク

天機ヲ伺ヒ奉ル感激屏營ノ至ニ勝ヘス臣 孝治誠恐誠懼頓首頓首謹テ白ス
右執奏ヲ請フ

明治三十七年十二月九日

東京府會議長 齋藤 孝治

宮内大臣 子爵 田中光顯殿

又同議員は、大山滿洲軍總司令官並東郷聯合艦隊司令長官に宛て、出征軍に對する感謝狀を贈呈したいと發議し、是亦滿場一致を以て可決した。

感謝狀は次の通で、議長に於て夫々贈呈した。

大山滿洲軍總司令官閣下 征露ノ役起リシヨリ閣下帷幄ニ侍リ軍機ヲ參贊シ今ヤ滿洲軍統督ノ重任ニ膺リ運籌決勝向フ所前ナク既ニ遼陽ヲ占領シ又大ニ勝ヲ沙河ニ制ス其偉勳盛績ハ中外ノ均ク歎賞スル所ナリ是レ固ヨリ我

天皇陛下ノ威德ニ因ルト雖モ閣下ノ多算善戰ト部下將卒諸氏ノ忠勇トヲ待ツニ非スンハ曷ソ克ク此コニ臻ランヤ想フニ戰線漸ク廣マリ策應愈々難ク之ニ加フルニ地朔漠ニ屬シ天ハ近寒ニ向フ而シテ前途又遼遠ナリ伏テ願クハ益々國ノ爲メニ自珍シ以テ最終ノ膚功ヲ奏セラレムコトヲ特ニ東京府會ノ決議ヲ經謹テ閣下及全軍將卒諸氏ノ勤勞ト忠烈トニ對テ感謝ノ意ヲ表ス

明治三十七年十二月九日

東京府會議長 齋藤 孝治

東郷聯合艦隊司令長官閣下 閣下我聯合艦隊ヲ統管シ先制後待事皆ナ機宜ニ適シ敵艦ヲ摧破シ敵港ヲ堵塞シ遂ニ能ク封鎖制海ノ權ヲ把握シ之ヲシテ形格シ勢禁シ殆ト殲滅ノ苦境ニ陥ラシメタルハ固ヨリ我
天皇陛下ノ威德ニ因ルト雖モ閣下ノ深謀遠計ト部下將卒諸氏ノ忠勇トニ賴ル

ニ非スンハ亦曷ソ克ク此コニ臻ランヤ想フニ萬里遠征櫛風沐雨之ニ加フルニ
天氣漸ク寒烈其艱楚如何ソヤ伏テ願クハ益々國ノ爲メニ珍重自愛シ以テ膚功
ヲ奏シ有終ノ美ヲ濟サレンコトヲ特ニ東京府會ノ決議ヲ經謹テ閣下及全艦隊
將卒諸氏ノ勤勞ト忠烈トニ對テ感謝ノ意ヲ表ス

明治三十七年十二月九日

東京府會議長 齋藤孝治

次に議員井田忠信は、戰地より歸還し現に入院中の傷病兵に對し、府會議員が部
署を定めて之を慰問せんことを發議し、是亦滿場一致を以て可決した。其の部署
は次の通で、これは會期中に夫々實行し、各一行の代表議員から慰問の狀況を議場
に報告したが、特に府會の決議を以て慰問したことは傷病歸還兵に多大の満足を
與へ、出征軍の士氣振作の上にも好果を及ぼしたことは、蓋し想像に難からぬとこ
ろである。

陸軍豫備病院慰問部署

三宅坂、陸軍豫備病院慰問員

袴田瀧三郎
酒井泰

戸山分院慰問員

南川福藏
山崎林次郎
井田忠信
沼田辰五郎
吉田金太郎
鈴木亮藏
關戸金三郎
松見文平

澁谷分院及氷川分院慰問員

相川尙清
苗村又右衛門
成島菊次良
岡村善五郎
大川誠吾

廣尾分院慰問員

中村平三郎
高島磯五郎
中居健藏
松井寅太郎
大森清禎

四千家知事、糧秣廠長、被服廠長に對する感謝の決議

議員杉原榮三郎は、我々府會議員一同が、曩に菊花拜觀の榮を擔ふたことは、畏くも特別の思召に依るとのことで、一同は深く感激に堪へない。又過日は我々議員一同が、糧秣被服兩廠を參觀して、其の規模の宏壯にして、設備の整頓せるを看て、この際洵に意を強ふし感激した次第である。而して、菊花拜觀と云ひ兩廠の參觀と云ひ、孰れも千家知事が時局の變に應ずるの趣旨より特別に配慮され、官民調和の實を示されたものと信ずるから、此の意味に於て千家知事に感謝の意を表する旨決議せんことを發議し、多數を以て可決した。又同人は糧秣廠並被服廠參觀に際し、懇切に案内して説明の勞を採られたる兩廠長に對し、感謝狀を贈呈せんことを發議し、是亦多數を以て可決した。この前段の決議に對し、千家知事は特に起立し

て菊花拜觀を仰付られたのは、畢竟當府會が輦轂の下に在りて、殊に議員諸君が此の軍國多事の際最も國家公共の爲めに盡瘁せらるゝ點を思召されたる結果と考へる。自分はたゞ宮内省當局に對し一言微意を申述べた事があるのみである。又兩廠參觀に就ては、議員諸君の御希望を取次ぎたる結果に過ぎない。然るに、斯様に決議を以て感謝の意を表せらるゝのは、實に過分の次第である」と挨拶した。

(註) 菊花拜觀の事は今回を最初として、爾來引續いて御許しになつて居る。

十二月十六日、千家知事は、次の閉會辭を述べて會議を閉ぢた。

「當議會ニ提出イタシマシタ各議案其他諮問案等ハ悉ク本日ヲ以テ議了セラレマシテ、茲ニ諸君ノ連日ノ勞ヲ謝シマシテ閉會ヲ告ケマス(明治三十七年府會速記録)」

議案

- 府第一號議案 府會市部會郡部會議決事件ノ分別中改正ノ件……………可決
- 府第二號議案 明治三十八年度市部郡部ノ分擔及收入ノ割合……………可決
- 府第三號議案 明治三十八年度東京府歳入歳出豫算書……………可決
- 府第四號議案 不動産賣却ノ件……………可決
- 府第五號議案 明治三十八年度東京府罹災救助基金歳入歳出……………可決

- 府第六號議案 明治三十八年度小學校教員恩給基金歲入豫算書……可決
- 府第七號議案 明治三十八年度東京府小學校教員恩給金歲入歲出豫算書……可決
- 府第八號議案 明治三十八年度東京府小學校教員加俸資金歲入歲出豫算書……可決
- 府第九號議案 明治三十八年度東京府教育資金歲入歲出豫算書……可決
- 府第十號議案 明治三十八年度東京府師範學校基本金歲入豫算書……可決
- 府第十一號議案 明治三十八年度東京府女子師範學校基本金歲入豫算書……可決
- 府第十二號議案 明治三十八年度東京府第一中學校基本金歲入豫算書……可決
- 府第十三號議案 明治三十八年度東京府第二中學校基本金歲入豫算書……可決

- 府第十四號議案 明治三十八年度東京府第三中學校基本金歲入豫算書……可決
- 府第十五號議案 明治三十八年度東京府第四中學校基本金歲入豫算書……可決
- 府第十六號議案 明治三十八年度東京府第一高等女學校基本金歲入豫算書……可決
- 府第十七號議案 明治三十八年度東京府第二高等女學校基本金歲入豫算書……可決
- 府第十八號議案 明治三十八年度東京府第三高等女學校基本金歲入豫算書……可決
- 府第十九號議案 明治三十八年度東京府織染學校基本金歲入豫算書……可決
- 府第二十號議案 明治三十七年度東京府歲入歲出追加豫算書……可決
- 明治三十六年度東京府歲入歲出決算書……承認
- 府會閉會中ノ出來事處理ニ關スル決議案……可決

議決要摘

府第一號議案 府會市部會郡部會議決事件ノ分別中改正ノ件…可 決
 府會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ府會ノ議決ヲ經ヘキ事件ト市部會郡部會ノ議決
 ヲ經ヘキ事件トノ分別中左ノ通改ム
 郡部會議決事件中

勸業費但書試驗場ノ下ニ「害蟲驅除豫防」ノ六字ヲ加フ勸業補助費但書ヲ「但農會、
 製絲、製茶及機業ニ關スルモノ」ニ改ム

府第二號議案 明治三十八年度市部郡部ノ分擔及收入ノ割合…可 決

明治三十二年勅令第二百八十五號第五條ニ依リ明治三十八年度府費ニ關スル市
 部郡部ノ分擔及收入ノ割合左ノ通定ムルモノトス

(註) 分擔及收入ノ割合は、標準が前年度と同一に付記載を省略する。

府第三號議案 明治三十八年度東京府歳入歳出豫算書……………可 決

歳入 經常部

第一款 財產收入	金八千七百八拾貳圓
第一項 不動產收入	金參千拾貳圓
第二項 動產收入	金五千七百七拾圓
第二款 國庫下渡金	金參萬貳千四拾四圓六錢四厘
第一項 警察費下渡金	金參萬貳千四拾四圓六錢四厘
第三款 雜收	金拾貳萬四千八百貳拾八圓拾參錢五厘
第四款 市郡分賦額	金五拾參萬九千九百五拾六圓六拾壹錢四厘
市部收入	金參拾八萬貳千百拾七圓七錢五厘
內郡部收入	金拾五萬七千八百參拾九圓五拾參錢九厘
第一項 市郡分賦額	金五拾參萬九千九百五拾六圓六拾壹錢四厘

經常部合計金七拾萬五千六百拾圓八拾壹錢參厘

臨時部

第一款 國庫補助金 金六千參百七拾壹圓八錢五厘

- 第一項 教育費補助金 金千八百圓
- 第二項 蠶種検査費補助金 金千六百六拾壹圓四拾六錢
- 第三項 傳染病豫防費補助金 金貳千九百九圓六拾貳錢五厘
- 第二款 財產賣拂代 金百九拾五圓貳拾五錢
- 第一項 不動產賣拂代 金百九拾五圓貳拾五錢
- 臨時部合計金六千五百六拾六圓參拾參錢五厘
- 歲入總計金七拾壹萬貳千七百七拾七圓拾四錢八厘
- 內 市部 收入 金五拾壹萬參千九百八拾壹圓八拾五錢四厘
- 郡部 收入 金拾九萬八千九百九拾五圓貳拾九錢四厘

歲出

經常部

- 第一款 警察費 金八萬六百六拾圓拾六錢壹厘
- 第一項 俸給及諸給 金參萬五拾圓八拾五錢
- 第二項 廳費 金壹萬七千六百九圓參拾壹錢壹厘
- 第三項 警察機密費 金參萬參千圓

(原案説明) 犯罪捜査ノ必要上前年度ニ比シ參千圓ヲ增加ス

第二款 警察廳舍修繕費 金五拾圓

第一款 修繕費 金五拾圓

第三款 土木費 金七萬四千貳百參拾八圓五拾錢

第一項 道路橋梁費 金貳百五拾圓

第二項 治水堤防費 金七萬參千九百八拾八圓五拾錢

第四款 府會議諸費 金壹萬貳千六百六拾壹圓五拾錢

第一項 府會議費 金七千六百貳拾七圓五拾錢

第二項 府參事會諸費 金四千五百參拾四圓

第五款 衛生及病院費 金九萬九千五百六拾七圓七拾七錢五厘

第一項 衛生諸費 金壹萬七千五百六拾五圓七拾五錢

第二項 巢鴨病院費 金七萬六千八百參拾六圓貳錢五厘

第三項 檢微費 金五千百六拾六圓

第六款 教育費 金貳拾四萬四千貳百九拾壹圓參拾七錢

第一項 師範學校費 金八萬七千六百八圓九錢

第二項 中 學 校 費 金九萬千九拾六圓拾貳錢

(原案説明) 第一中學校費中ニ韓國委託學生費金貳千七百圓ヲ新ニ計上セリ但シ本費ハ全部韓國ヨリ辨償スルモノトス

第三項 高 等 女 學 校 費 金參萬八千六百七拾七圓拾八錢

第四項 織 染 學 校 費 金壹萬九千五百六拾四圓四拾貳錢

第五項 學 事 諸 費 金六千五百五拾圓四拾錢

第六項 小 學 校 教 員 檢 定 費 金七百九拾五圓拾六錢

第七項 救 育 費 金六萬四千八百九拾六圓九拾九錢

第八項 諸 達 書 及 揭 示 諸 費 金貳千貳百參拾六圓參錢貳厘

第九項 勸 業 諸 費 金貳千貳百參拾六圓參錢貳厘

第十項 勸 業 會 費 金七百貳圓

第十項 勸 業 諸 費 金七千五百拾五圓五拾貳錢

第十項 森 林 經 營 費 金壹萬參千參百四拾壹圓六拾錢

(原案説明) 本項中造林ノ都合上俸給雜給等ニ於テ減スルモノ不用木材處置ノ方法ヲ改メ製炭事業經營ノ爲メ新夕ニ作業費五千圓ヲ計上セリ

第四項 獸 疫 豫 防 費 金參千九拾壹圓

第十款 府 費 取 扱 費 金參千八百圓

第十款 金 庫 諸 費 金參千八百圓

第七款 府 廳 舍 修 繕 費 金六百圓

第七款 修 繕 費 金六百圓

第三款 衆 議 院 議 員 選 舉 費 金貳百拾圓

第三款 選 舉 費 金貳百拾圓

第三款 府 會 議 員 選 舉 費 金貳百七拾圓

第一款 選 舉 費 金貳百七拾圓

第七款 府 吏 員 費 金參萬貳千九百拾七圓五拾錢

第一款 吏 員 費 金參萬貳千九百拾七圓五拾錢

第五款 財 產 費 金七拾圓

第一款 管 理 費 金七拾圓

第六款 土地收用費 金百四拾圓

第一項 審査諸費 金百四拾圓

第七款 豫備費 金壹萬圓

第一項 豫備費 金壹萬圓

經常部合計金六拾五萬七百五拾九圓九拾四錢八厘

臨時部

第一款 土木費 金四萬八千七百五拾七圓

第一項 治水堤防費 金四萬八千七百五拾七圓

第二款 衛生及病院費 金千四百貳拾五圓貳拾錢

第一項 巢鴨病院費 金千四百貳拾五圓貳拾錢

第三款 教育費 金六千九百參拾五圓

第一項 師範學校費 金八拾六圓

第二項 中學校費 金百九拾七圓

第三項 織染學校費 金六千六百五拾貳圓

第四款 教育補助費 金千參百圓

第一款 教育補助費 金千參百圓

第五款 勸業補助費 金參千圓

第一項 勸業補助費 金參千圓

臨時部合計金六萬千四百拾七圓貳拾錢

歲出總計金七拾壹萬貳千七百七拾七圓四錢八厘

內 市部負擔 金五拾壹萬參千九百八拾壹圓八拾五錢四厘

郡部負擔 金拾九萬八千九百九拾五圓貳拾九錢四厘

府第四號議案 不動産賣却ノ件……………可決

東京府南多摩郡八王子町

一 織染學校舊建物 但シ便所柵扉門共

此建坪百四十坪七合五勺

此豫定價格金百九拾五圓貳拾五錢

右不用ニ屬スルヲ以テ賣却スルモノトス

府第五號議案 明治三十八年度東京府罹災救助基金歲入歲

出豫算書.....可決

歲入

第一款 罹災救助基金 金四萬貳千六百七拾四圓四拾貳錢

第一項 繰越 金 金貳千圓

第二項 益 金 金四萬六百七拾四圓四拾貳錢

歲入合計金四萬貳千六百七拾四圓四拾貳錢

歲出

第一款 罹災救助基金 金四萬貳千六百七拾四圓四拾貳錢

第一項 救助費 金貳千四百六拾五圓

第二項 公債證書買入代 金四萬貳百九圓四拾貳錢

歲出合計金四萬貳千六百七拾四圓四拾貳錢

府第六號議案 明治三十八年度小學校教員恩給基金歲入豫

算書.....可決

歲入

第一款 小學校教員恩給基金 金四千四百四拾貳圓

第一項 納付 金 金四千四百四拾貳圓

歲入合計金四千四百四拾貳圓

府第七號議案 明治三十八年度東京府小學校教員恩給金歲

入歲出豫算書.....可決

歲入

第一款 小學校教員恩給金 金壹萬千貳百四拾貳圓

第一項 恩給基金利息 金貳千六百四拾五圓

第二項 國庫給與金 金貳千五百九拾七圓

第三項 補充費 金六千圓

歲入合計金壹萬千貳百四拾貳圓

歲出

第一款 小學校教員恩給金 金壹萬千貳百四拾貳圓

第一項 恩 給 金 金壹萬千貳百四拾貳圓
歲出合計金壹萬千貳百四拾貳圓

府第八號議案 明治三十八年度東京府小學校教員加俸資金

歲入歲出豫算書.....可 決

歲 入

第一款 小學校教員加俸資金 金四萬千八百七拾壹圓

第一項 國 庫 補 助 金 金參萬六千圓

第二項 財 產 收 入 金五千八百七拾壹圓

歲入合計金四萬千八百七拾壹圓

歲 出

第一款 小學校教員加俸資金 金貳萬六千九拾九圓八拾錢

第一項 年 功 加 俸 金貳萬參千五百九拾五圓八拾錢

第二項 特 別 加 俸 金貳千六百四圓

歲出合計金貳萬六千九拾九圓八拾錢

府第九號議案 明治三十八年度東京府教育資金歲入歲出豫算書.....可 決

歲 入

第一款 教 育 資 金 金六千八百八拾四圓拾錢

第一項 財 產 收 入 金六千八百八拾四圓拾錢

歲入合計金六千八百八拾四圓拾錢

歲 出

第一款 教 育 資 金 金六千八百八拾四圓拾錢

第一項 貸 付 金 金五千參百八拾四圓拾錢

第二項 補 助 金 金八百圓

歲出合計金六千八百八拾四圓拾錢

府第十號議案 明治三十八年度東京府師範學校基本金歲入

豫算書.....可 決

歲 入

第五章 府會の行動 明治三十七年の府會

第一款 師範學校基本金 金千貳拾六圓貳拾錢
 第一項 經常費剩餘繰入 金八百八拾圓
 第二項 財 產 收 入 金參拾五圓貳拾錢
 第三項 物 品 賣 拂 代 金百拾壹圓
 歲入合計金千貳拾六圓貳拾錢

府第十一號議案 明治三十八年度東京府女子師範學校基本

金歲入豫算書……………可 決

歲 入

第一款 女子師範學校基本金 金八百貳拾壹圓九拾錢
 第一項 經常費剩餘繰入 金七百六拾圓
 第二項 財 產 收 入 金參拾圓四拾錢
 第三項 物 品 賣 拂 代 金參拾壹圓五拾錢
 歲入合計金八百貳拾壹圓九拾錢

府第十二號議案 明治三十八年度東京府第一中學校基本金

歲入豫算書……………可 決

歲 入

第一款 第一中學校基本金 金貳拾八圓六拾錢
 第一項 經常費剩餘繰入 金拾五圓
 第二項 財 產 收 入 金六拾錢
 第三項 物 品 賣 拂 代 金拾參圓
 歲入合計金貳拾八圓六拾錢

府第十三號議案 明治三十八年度東京府第二中學校基本金

歲入豫算書……………可 決

歲 入

第一款 第二中學校基本金 金五百圓
 第一項 經常費剩餘繰入 金四百五拾圓

第五章 府會の行動 明治三十七年の府會

第二項 財產收入 金拾八圓
 第三項 物品賣拂代 金參拾貳圓
 歲入合計金五百圓

府第十四號議案 明治三十八年度東京府第三中學校基本金

歲入豫算書……………可決

歲入

第一款 第三中學校基本金 金百拾五圓
 第一項 經常費剩餘繰入 金百圓
 第二項 財產收入 金四圓
 第三項 物品賣拂代 金拾壹圓
 歲入合計金百拾五圓

府第十五號議案 明治三十八年度東京府第四中學校基本金

歲入豫算書……………可決

第一款 第四中學校基本金 金五百五拾圓貳拾錢
 第一項 經常費剩餘繰入 金貳百參拾圓
 第二項 財產收入 金參百九圓貳拾錢
 第三項 物品賣拂代 金拾壹圓
 歲入合計金五百五拾圓貳拾錢

府第十六號議案 明治三十八年度東京府第一高等女學校基

本金歲入豫算書……………可決

歲入

第一款 第一高等女學校基本金 金貳百四拾八圓四拾錢
 第一項 經常費剩餘繰入 金百九拾圓
 第二項 財產收入 金參拾八圓四拾錢
 第三項 物品賣拂代 金貳拾圓
 歲入合計金貳百四拾八圓四拾錢

府第十七號議案 明治三十八年度東京府第二高等女學校基

本金歲入豫算書……………可決

歲入

第一款 第二高等女學校基本金 金貳拾八圓八錢

第一項 經常費剩餘繰入 金貳拾七圓

第二項 財產收入 金壹圓八錢

歲入合計金貳拾八圓八錢

府第十八號議案 明治三十八年度東京府第三高等女學校基

本金歲入豫算書……………可決

歲入

第一款 第三高等女學校基本金 金參百參圓七拾錢

第一項 經常費剩餘繰入 金貳百八拾圓

第二項 財產收入 金拾壹圓貳拾錢

第三項 物品賣拂代 金拾貳圓五拾錢

歲入合計金參百參圓七拾錢

府第十九號議案 明治三十八年度東京府織染學校基本金歲

入豫算書……………可決

歲入

第一款 織染學校基本金 金千四拾圓貳拾錢

第一項 經常費剩餘繰入 金四拾圓

第二項 財產收入 金壹圓六拾錢

第三項 物品賣拂代 金九百貳拾參圓六拾錢

第四項 作業益金 金七拾五圓

歲入合計金千四拾圓貳拾錢

府第二十號議案 明治三十七年度東京府歲入歲出追加豫算

書……………可決

歲入

經常部

第四款 市郡分賦額 金六萬七千五百六拾四圓七拾錢

第一款 市郡分賦額 金六萬七千五百六拾四圓七拾錢

經常部合計金六萬七千五百六拾四圓七拾錢

臨時部

第一款 國庫補助金 金貳千八百六拾九圓六拾貳錢五厘

第一項 傳染病豫防費補助金 金貳千八百六拾九圓六拾貳錢五厘

臨時部合計金貳千八百六拾九圓六拾貳錢五厘

歲入總計金七萬四千參拾四圓參拾貳錢五厘

歲出

經常部

第三款 土木費 金參萬六千五百貳拾九圓

第二項 治水堤防費 金參萬六千五百貳拾九圓

水害復舊工事費

第七款 救育費 金參萬貳百七拾九圓七拾錢

第一項 救助費 金參萬貳百七拾九圓七拾錢

行旅病人死亡人費及精神病者費管內辨償金

第七款 府吏員費 金七百五拾六圓

第一項 吏員費 金七百五拾六圓

水害復舊工事監督吏員費

經常部合計金六萬七千五百六拾四圓七拾錢

歲出總計金六萬七千五百六拾四圓七拾錢

明治三十六年度東京府歲入歲出決算書……………承認

府會閉會中ノ出來事處理ニ關スル決議案……………可決

一府會閉會中ニ起リタル出來事ニ關シ必要ト認メタルトキハ議長ハ府會ヲ代表

シ吉凶慶弔若ハ參列訪問等ヲ爲シ次回ノ府會ニ之ヲ報告スルモノトス(議員杉

原榮三郎外二名發議)

通常市部會

本會は、明治三十七年十一月二十五日午後二時十分に開議し、會議四日間にして十二月十六日午後三時議事終了散會した。

杉原議長は、會議の同意を得て、福田又一、酒井泰を會議録署名議員に選定した。

この會議で稍々特異の事項を次に掲げる。

前年本會の決議を以て、電車に課税の件を建議したるに、本年何等の提案もないので、議員齋藤孝治から質問があつた。之に對して理事者は、電車に課税するには、特別税として内務大藏兩大臣の許可を受ける必要がある。然るに、兩省の省議決定に依ると、國稅納税者が其の營業の用に供する物件等に對しては、特別地方税を賦課することを許可されない方針である。而して電車の營業に對しては、國稅を賦課せられて居るから、自然特別地方税を課することが出來ぬことを確かめ得たので、本年も提案を見合せた次第であると答へた。

會議の最終日に於て、議員齋藤鐵太郎は、湯屋取締規則中浴場建築に關する距離制限の規定を、衛生上の見地より撤廢せられんことを希望し、村田權次郎は、三十六

年度市部決算に依れば、四萬餘圓の決算殘金を生じた。これは畢竟豫算見積りの精確ならざるが爲めなれば、將來の注意を望むと、希望を述べた。

議案 附建議案

第一號 案部	明治三十八年度東京府市部營業稅雜種稅課目課額……………修正
第二號 案部	明治三十八年度東京府市部歲入歲出豫算書……………可決
第三號 案部	明治三十八年度東京府市部請願巡查費徵收額……………可決
第四號 案部	明治三十八年度東京府市部學資金歲入豫算書……………可決
第五號 案部	明治三十八年度東京府職工學校基本金歲入豫算書……………可決
第六號 案部	明治三十七年度東京府市部歲入歲出追加豫算書……………可決
第七號 案部	明治三十七年度東京府市部追加家屋稅賦課方ノ件……………承認
	明治三十六年度東京府市部歲入歲出決算書……………承認
	市街宅地租稅率低減及通行稅廢止ニ關スル建議案……………可決

議決摘要

第一號 案部	明治三十八年度東京府市部營業稅雜種稅課目	修正
課額……………		

雜種稅

一 遊藝稼人

一等

年稅 金貳拾圓

二等

同 金拾圓

三等

同 金貳圓

一 市場

京橋區靈岸島東京和洋船具商糶糶市場

年稅 金拾圓

一 船

日本形船積石五十石未滿 舢漁船小廻船(積石ニ拘ハラヌ)

長自舳梁至舳梁 二間未滿

年稅 金四拾錢

同 二間

同 金六拾錢

但シ二間以上一間ヲ加フル毎ニ金貳拾錢ヲ増加ス一間未滿ヲ加フルト

キ亦同シ

一 車

鐵道馬車

二匹立以上

年稅 金四拾五圓

一匹立

同 金貳拾圓(修正削除)

(修正理由) 時運ノ趨勢ニ伴ヒ鐵道馬車ハ廢業シ電車カ之ニ代ハレル現在ニ於テ課目課額中ニ記載スルノ必要ナキニ由ル(議員松尾清次郎勸議)

一 採藻

海苔採

一等

海面百坪ニ付 年稅

〔金壹圓四拾錢〕
〔金七拾錢〕ト修正

二等

同

〔金壹圓拾錢〕
〔金五拾五錢〕ト修正

三等

同

〔金八拾錢〕
〔金四拾錢〕ト修正

四等

同

金參拾錢(修正追加)

五等

同

金貳拾錢(修正追加)

(修正理由) 前年原案ニ對シ一、二、三等ノ稅額ヲ倍額ニ修正シ四等、五等ヲ削除シタルモ郡部ハ別段修正セザリシ爲メ市郡權衡ヲ失スルノミナラス稅額ヲ倍加シタル爲メ借區ヲ返上スルモノ續出シ却テ總收入ニ於テ減額ヲ見ルノ實況ニ鑑ミ現稅額ノ不相當ナルヲ認ムルニ由ル(議員水町猪三郎勸議)

(原案說明) 前年度ニ比シ變更セシモノヲ舉クレハ遊藝稼人稅ヲ相撲、俳優ト同シク年稅ニ改メ

タルト市場税ニ京橋區靈岸島東京和洋船具商糶糶市場ヲ加ヘタルト船税中日本形船積石五十石未滿鯉漁船小廻船ノ二間以上ノ増差額多キニ過クルヲ以テ之ヲ低減シタルモノ等トス

市部 第二號議案 明治三十八年度東京府市部歳入歳出豫算書……………可決

歳入

經常部

第一款 地租 金拾萬八千八拾圓

第一款 地租 金拾萬八千八拾圓
(地租壹圓ニ付四拾錢)

第二款 營業 金六萬參千百拾六圓五拾貳錢

第一款 商 業 金四萬九拾五圓貳拾貳錢

第二款 工 業 金貳萬參千貳拾壹圓參拾錢

第三款 雜 種 稅 金參拾參萬八千六百參拾五圓八拾參錢

第四款 營業稅附加稅 金拾七萬八千四百八拾五圓

第一款 營業稅附加稅 金拾七萬八千四百八拾五圓
(國稅額ノ十分ノ一)

第五款 家屋稅 金貳拾參萬八千五百七拾五圓六錢

第一款 家屋稅 金貳拾參萬八千五百七拾五圓六錢
(一個ニ付壹錢八厘)

第六款 財產收入 金千圓

第一款 動產收入 金千圓

第七款 國庫下渡金 金參拾六萬貳千貳百參拾八圓九拾九錢參厘

第一款 警察費下渡金 金參拾六萬貳千貳百參拾八圓九拾九錢參厘

第八款 雜收 金拾貳萬千六百九拾五圓

第九款 市郡連帶市部收入額 金拾參萬千八百六拾四圓七拾七錢九厘

第一款 市郡連帶市部收入額 金拾參萬千八百六拾四圓七拾七錢九厘

經常部合計金百五拾四萬參千六百九拾壹圓拾八錢貳厘

臨時部

第一款 繰越金 金千圓

第一款 前年度繰越金 金千圓

第二款 國庫補助金 金六千六百八拾九圓七拾壹錢七厘

第一款 市町村傳染病豫防補助費補助金 金千六百六拾六圓六拾六錢七厘

第二項 教育費補助金 金貳千五百圓

第三項 警察費補助金

金貳千四百六拾七圓八錢五厘

第四項 警察廳舍建築修繕費補助金

金五拾五圓九拾六錢五厘

臨時部合計金七千六百八拾九圓七拾壹錢七厘

歲入總計金百五拾五萬千參百八拾圓八拾九錢九厘

歲出

經常部

第一款 警察費

金九拾六萬八千六百拾圓五拾參錢參厘

第一項 俸給及諸給

金七拾參萬千參百貳拾圓貳拾錢

巡查二千八百六十一人月俸拾四圓此金四拾八萬六千四百四拾八圓書記百八十四人月俸拾參圓此金貳萬八千七百四圓巡查宿料二千八百六十一人月額貳圓諸備給(消防)八萬參千七百四拾圓九拾五錢巡查給助四萬九千九百九拾四圓其他手當旅費惠與等

第二項 廳費

金貳拾參萬七千貳百九拾圓參拾參錢參厘

第二款 警察廳舍修繕費

金六千參百七拾圓

第一項 修繕費

金六千參百七拾圓

第三款 教育費

金壹萬五千貳百拾四圓九錢

第一項 職工學校費

金壹萬五千貳百拾四圓九錢

第四款 府吏員費

金貳千六百八拾五圓

第一項 吏員費

金貳千六百八拾五圓

第五款 財產費

金五圓

第一項 管理費

金五圓

第六款 府費取扱費

金六千貳百八拾圓

第一項 徵收費

金六千貳百八拾圓

第七款 豫備費

金五千圓

第一項 豫備費

金五千圓

第八款 市郡分賦市部負擔額

金五拾壹萬參千九百八拾壹圓八拾五錢四厘

第一項 市郡分賦市部負擔額

金五拾壹萬參千九百八拾壹圓八拾五錢四厘

經常部合計金百五拾壹萬八千四百四拾六圓四拾七錢七厘

臨時部

第一款 市町村傳染病豫防補助費

金壹萬圓

第一項 市町村傳染病豫防補助費 金壹萬圓

臨時部合計金壹萬圓

歲出總計金百五拾貳萬八千四百四拾六圓四拾七錢七厘

市 第三號議案部 明治三十八年度東京府市部請願巡查費徵收額……可決

一金貳拾壹圓八拾錢 市部巡查一人一ヶ月分

市 第四號議案部 明治三十八年度東京府市部學資金歲入豫算書……可決

歲入

第一款 學 資 金 金貳百九拾七圓五拾參錢

第一項 財 產 收 入 金貳百九拾七圓五拾參錢

歲入合計金貳百九拾七圓五拾參錢

市 第五號議案部 明治三十八年度東京府職工學校基本金歲入豫

算書……可決

歲入

第一款 職工學校基本金 金千貳百拾壹圓四拾錢

第一項 經常費剩餘繰入 金百六拾圓

第二項 財 產 收 入 金六圓四拾錢

第三項 物 品 賣 拂 代 金八百九拾五圓

第四項 作 業 益 金 金百五拾圓

歲入合計金千貳百拾壹圓四拾錢

市 第六號議案部 明治三十七年度東京府市部歲入歲出追加豫算書……可決

歲入

經 常 部

第五款 家 屋 稅 金六萬六千貳百七拾圓八拾五錢

第一項 家 屋 稅 金六萬六千貳百七拾圓八拾五錢
(一個三付五厘)

第九款 市郡連帶市部收入額 金壹千九百參拾七圓八拾六錢

第五章 府會の行動 明治三十七年の府會 六四三

第一項 市郡連帶市部收入額 金壹千九百參拾七圓八拾六錢
經常部合計金六萬八千貳百八圓七拾壹錢

臨時部

第二款 國庫補助金 金四千圓

第一項 市町村傳染病豫防補助費補助金 金四千圓

臨時部合計金四千圓

歳入總計金七萬貳千貳百八圓七拾壹錢

歳出

經常部

第八款 市郡分賦市部負擔額 金四萬八千百拾四圓四拾錢四厘

第一項 市郡分賦市部負擔額 金四萬八千百拾四圓四拾錢四厘

經常部合計金四萬八千百拾四圓四拾錢四厘

臨時部

第二款 市町村傳染病豫防補助費 金貳萬四千圓

第一項 市町村傳染病豫防補助費 金貳萬四千圓

臨時部合計金貳萬四千圓

歳出總計金七萬貳千百拾四圓四拾錢四厘

市第七號議案 明治三十七年度東京府市部追加家屋稅賦課方
ノ件.....可決

明治三十七年度東京府市部追加家屋稅 個數一個ノ賦課ニ付キテハ市部ニ屬スル
付五厘 府稅賦課規則第十七條及第二十條ヲ適用セス明治三十八年一月一日ノ現所有建
物ヲ標準トシ個數ヲ定メテ其ノ所有者ニ賦課ス

明治三十六年度東京府市部歳入歳出決算書.....承認

市街宅地租稅率低減及通行稅廢止ニ關スル建議案.....可決

(建議の大要) 政府は、今回帝國議會に向て、非常特別稅法の改正案を提出し、市街宅
地租を地價百分の二十八に改められる。これは實に現行定率に比し十數倍せる
ものであつて、餘まりに急激なる増率である。今や國家非常の時局に際し、國用を
辨するが爲め増稅の已むを得ざるは、國民の齊しく諒とするとこゝろなれども、一面

に於ては國力の培養に努め、將來に向て多々益々辨ずるの用意がなくてはならぬ。然るに上述の如き急激なる増税は、民力を極度に涸渇せしめ、國家經濟の調整を圖かる所以でない。希くは時局に鑑み負擔の程度を斟酌して、東京市々街宅地租の増徴は、新舊を合せて之を百分の二十以下と爲し、市民をして益々國力培養に努むるの餘地を存せしめられたい。

又此れと同時に、政府は新に交通機關に對して、通行税を課するの法案を提出し、我東京市内に於ける電車、汽船等の乗客一名に對し、一錢を課せられんとする。然るに、前記乗客の大多數は勞働者細民等の階級に在る者であつて、本案の實施を見るときは、多數府民に非常の不便を感せしめ、交通機關の發達を妨げ、延て生産事業を阻害するに至るは、疑なき所なれば、特に東京市内に於ける通行税は、全然之を廢棄せられんことを切望する。

右趣旨の意見書を、内務大臣に提出するので、建議案は多數を以て可決した議員松尾清次郎發議。

通常郡部會

本會は、明治三十七年十一月二十五日午後二時十九分を以て開會し、會議四日間に涉り、十二月十六日午後三時三十四分議事終了散會した。

秋本議長は、會議の同意を得て、井上吉之助、谷岡慶治を會議録署名議員に選定した。この會議に於ける稍々特異の事項を次に掲げる。

一出征軍人家族の納税

議員井田忠信は、目下露國と交戦中に際し、出征軍人の家族が、租税滞納のため差押を受ける等悲惨なる風聞を耳にすることが尠くない。忠勇なる出征軍人をして、斯様に後顧の憂あらしむるは、實に忍び難いところである。國税は兎も角として、府税に關して當局者が相當善處の考もあらば承はりたい」と質問した。之に對し番外理事者は、最近に於て、府縣制第百十三條に依り、府參事會の議決を経て府税の徴收を猶豫した實例がある。今後に於ても、若し特別の事情ある者があれば、府縣制の規定に據て減免若くは納税延期等の措置を採る考であると答辯した。然るに井田議員は重ねて、斯様な規定がありとすれば、本會に於て別段に決議する等の

必要はなかるべきも、たとへ規定が存するとも、實際の運用に當りて杓子定規の取扱に出るがため、充分法規を活用することが出來ず、出征軍人の留守宅をして酸鼻至極の窮境に陥らしむる虞れがあるから、郡區長其の他に訓示して、能く趣旨の徹底する様取計はれたいと要望した。

二 農事試験場の成績發表

議員田中新造は、農事試験場費の議事に關聯して、次の質問をした、目下農事試験場の仕事の主なるものは試作である。而して、其の試作の成績は良好であらうと考へる。肥沃なる試作地に充分なる肥料を施し、専門技師が其の蘊蓄を傾けて試作するのであるから、其の成績の佳良なるは當然である。併し之れが一般農家に何等の利益を及ぼす所以ではない。一般農家は孰れも肥沃なる土地に耕作するとは限らない。寧ろ瘠土や砂地等が多いと思ふ。斯かる土質に對し如何なる方法を取れば、經濟的に收穫を擧げ得るかを研究發表してこそ、始めて試験場の効果があるものと考へる。然るに、此の點に於て從來の方針は、眞に遺憾が多い。理事者之に對する感想並に今後の方針は如何であるか。又從來試験の成績は、如何なる方法を以て發表せるか、自分の見聞に依れば、一般農家には毫も周知せられて

居らぬと思ふ。この普及方法も併せて説明を望む之に對し、番外理事者は、臨時報告の印刷配付、農事講習會同講話會、共進會、品評會の開催等に因て、農事の改良及成績の發表を取計らつて居ると答へ、尙ほ番外山田書記官は、從來の取扱振に於て、遺憾の點も尠からぬことと信するから、將來は一層一般農家に對する接觸指導の機會を多くし、又試験場の成績發表に就ても、更に普及を期する考なれば、尙ほ心付かれたる事項は遠慮なく注意若くは勸告せられたいと補足陳述した。

三 土木事項に關する希望

會議の最終日に井上吉之助、伊藤祐治、井田忠信等の各議員から、從來建議若くは希望を陳述した。府費支辨道に編入又は變更の件に關して、其の實現の速かならんことを希望するところがあつた。其の内最も急を要するものに就ては、井上議員の發議で建議案として提出し、可決された。

議案 附諮問案、建議案

第一號案部	明治三十八年度東京府郡部營業稅雜種稅課目課額……………可決
第二號案部	明治三十八年度東京府郡部歲入歲出豫算書……………可決
第三號案部	明治三十八年度東京府郡部請願巡查費徵收額……………可決

第郡 第四號 議案部	明治三十八年度東京府郡部恩賜金歳入歳出豫算書……………可決
第郡 第五號 議案部	明治三十八年度東京府郡部救恤資金歳入歳出豫算書……………可決
第郡 第六號 議案部	明治三十八年度東京府郡部學資金歳入豫算書……………可決
第郡 第七號 議案部	明治三十八年度東京府郡部衛生資金歳入豫算書……………可決
第郡 第八號 議案部	明治三十七年度東京府郡部歳入歳出追加豫算書……………可決
諮郡 問第一號 部	府費補助道及里道ヲ府費支辨道ニ編入ノ件……………答申議決
諮郡 問第二號 部	府費支辨假定縣道ヲ里道ニ補助里道ヲ假定縣道ニ編入ノ件……………答申議決
	明治三十六年度東京府郡部歳入歳出決算書……………承認
	府費支辨道及補助道ニ編入又ハ變更ニ關スル建議案……………可決

議決摘要

第郡 第一號 議案部	明治三十八年度東京府郡部營業稅雜種稅課目課額……………可決
------------------	-------------------------------

雜種稅

一市場	荏原郡品川町青物橫町市場	月稅	金參圓五拾錢
	同 郡大森町大森魚市場	同	金七圓
	右ニ掲載セサル各市場	同	金參拾錢
一船	日本形船積石五十石未滿 <small>（積石ニ拘ハラス）</small> 解漁船・小廻船	年稅	金四拾錢
	長 <small>自軸梁至</small> 二間未滿	同	金六拾錢

但シ二間以上一間ヲ加フル毎ニ金貳拾錢ヲ増加ス一間未滿ヲ加フルトキ亦同シ

一畜	犬	一頭ニ付	年稅	金壹圓
----	---	------	----	-----

(原案説明) 前年度ノ課目課額ニ比シ變更セシモノヲ舉クレハ市場稅ノ内荏原郡品川町青物橫町市場及同郡大森町大森魚市場ハ近來好況ヲ呈セルヲ以テ稅額ヲ引上ケ掲載セシ市場以外ノモノニ對シテモ課稅スルノ適當ナルヲ認メテ之レカ稅額ヲ定メ從テ是レト同稅額タリシ西多摩郡青梅町青梅蔬菜市場同郡平井村平井市場南多摩郡八王子町青物市場ハ特ニ掲記ノ必要ナキヲ以テ之ヲ削リタルト船稅中日本形船積石五十石未滿解漁船小廻船ノ二間以上ノ増差額多

キニ過クルヲ以テ之ヲ低減スルト取締上ノ必要ヨリ新ニ畜犬稅ヲ設クル等トス

郡 第二號議案部 明治三十八年度東京府郡部歲入歲出豫算書……………可決

歲入

經常部

第一款 地 租 割 金拾六萬九千七百八拾六圓

第一項 地 租 割 金拾六萬九千七百八拾六圓
(地租壹圓ニ付四拾六錢)

第二款 營 業 稅 金貳萬四千四百拾五圓七拾六錢

第一項 商 業 稅 金壹萬八千百拾五圓七拾四錢

第二項 工 業 稅 金六千參百圓貳錢

第三款 雜 種 稅 金拾五萬六千六百四拾參圓參拾貳錢

第四款 營業稅附加稅 金貳萬參千九百拾四圓

第五款 家 屋 稅 金六萬八千九百拾六圓八拾七錢貳厘
(國稅額ノ十分ノ二)

(八王子町分六二、八〇二圓餘其他ノ各町村分一個ニ付四錢六厘)

第六款 戶 數 割 金九萬八百六拾七圓四拾錢

第七款 財 產 收 入 金九萬八百六拾七圓四拾錢
(二戶ニ付壹圓參拾錢)

第一項 不動產收入 金七拾圓

第二項 動 產 收 入 金參拾六圓

第八款 國 庫 下 渡 金 金七萬參千八拾七圓六拾壹錢

第九款 警察費下渡金 金七萬參千八拾七圓六拾壹錢

第十款 雜 收 入 金五萬六百參拾九圓七拾參錢

第十款 市郡連帶郡部收入額 金四萬參百五拾五圓七拾五錢五厘

第一項 市郡連帶郡部收入額 金四萬參百五拾五圓七拾五錢五厘

經常部合計金六拾九萬八千七百參拾貳圓四拾四錢七厘

臨時部

第一款 綠 越 金 金壹萬五千圓

第一項 前 年 度 綠 越 金 金壹萬五千圓

第二款 國 庫 補 助 金 金參千參百圓

第一項 市町村傳染病豫防補助費補助金 金千圓

第二項 農事試驗場補助金 金貳千參百圓

臨時部合計金壹萬八千參百圓

歲入總計金七拾壹萬七千參拾貳圓四拾四錢七厘

歲出

經常部

第一款 警察 費 金拾九萬五百九拾圓貳錢四厘

第一項 俸給及諸給 金拾五萬千參百參拾九圓拾錢

巡查六百九人月俸拾四圓此金拾萬貳千參百拾貳圓書記七十九人月俸拾參圓此金壹萬貳千參百貳拾四圓巡查宿料六百九人分月額壹圓參拾五錢此金九千八百六拾五圓巡查給助壹萬八百四拾六圓五拾錢其他手當旅費惠與諸備給等

第二項 廳 費 金參萬九千貳百五拾圓九拾貳錢四厘

第二款 警察廳舍修繕費 金千圓

第一項 修繕 費 金千圓

第三款 土木 費 金拾貳萬七千九拾七圓八拾錢

第一項 道路橋梁 費 金拾貳萬千參百四圓八拾錢

第二項 治水堤防 費 金五千七百九拾參圓

第四款 郡廳舍修繕費 金貳百四拾圓

第一項 修繕 費 金貳百四拾圓

第五款 郡役所 費 金四萬參千七百七拾八圓貳拾錢

第一項 俸給及諸給 金參萬五千五百貳拾五圓八拾錢

書記九十一人月俸拾八圓此金壹萬九千六百五拾六圓視學八人月俸參拾六圓八拾七錢五厘此金參千五百四拾圓其他雇員給旅費退官賜金死亡賜金惠與諸備給等

第二項 廳 費 金七千六百五拾貳圓四拾錢

第六款 救育 費 金千六百八拾七圓

第一項 救助 費 金千六百八拾七圓

第七款 諸達書及揭示諸費 金拾六圓

第一項 令達諸費 金拾六圓

第八款 勸業 費 金壹萬四千四百六拾六圓四拾八錢六厘

- 第一項 農事試驗場費 金壹萬參千五百參拾七圓四拾八錢六厘
- 第二項 勸業諸費 金九百貳拾九圓
- 第九款 府費取扱費 金壹萬五千百拾貳圓
- 第一項 徵收費 金壹萬五千參拾貳圓
- 第二項 滯納處分費 金八拾圓
- 第十款 府吏員費 金四千參拾五圓
- 第一項 吏員費 金四千參拾五圓
- 第十款 財產費 金六圓
- 第一項 管理費 金六圓
- 第十款 豫備費 金五千圓
- 第一項 豫備費 金五千圓
- 第十款 市郡分賦郡部負擔額 金拾九萬八千百九拾五圓貳拾九錢四厘
- 第一項 市郡分賦郡部負擔額 金拾九萬八千百九拾五圓貳拾九錢四厘
- 經常部合計金六拾萬六百貳拾參圓八拾錢四厘
- 臨時部

- 第一款 土木費 金五萬貳千貳百七拾圓
- 第一項 道路橋梁費 金四萬參千貳百五拾參圓
- 第二項 治水堤防費 金九千拾七圓
- 第二款 郡市町村土木補助費 金貳萬千八百五拾五圓參拾四錢八厘
- 第一項 道路橋梁費補助 金壹萬貳百五拾九圓四拾參錢貳厘
- 第二項 治水堤防費補助 金貳百五拾壹圓六錢九厘
- 第三項 以樋費補助 金壹萬千參百四拾四圓八拾四錢七厘
- 第三款 衛生及病院補助費 金千八百九拾八圓
- 第一項 病院補助費 金千八百九拾八圓
- 第四款 市町村傳染病豫防補助費 金六千圓
- 第一項 市町村傳染病豫防補助費 金六千圓
- 第五款 勸業費 金貳百五拾九圓
- 第一項 農事試驗場費 金貳百五拾九圓
- 第六款 勸業補助費 金五千貳百圓
- 第一項 勸業補助費 金五千貳百圓

府農會補助四千圓實業練習生補助貳百圓機業補助千圓

第七款 町村警備補助費 金百拾圓

第一項 町村警備補助費 金百拾圓

第八款 土木費本年度支出額 金貳萬六千六百六拾四圓

第一項 道路橋梁費本年度支出額 金貳萬六千六百六拾四圓

臨時部合計金拾壹萬參千七百五拾六圓參拾四錢八厘

歲出總計金七拾壹萬四千參百八拾圓拾五錢貳厘

郡部 第三號議案部 明治三十八年度東京府郡部請願巡查費徵收額……………可決

一金貳拾壹圓拾錢 郡部巡查一人一ヶ月分

郡部 第四號議案部 明治三十八年度東京府郡部恩賜金歲入歲出豫

算書……………可決

歲入

第一款 恩賜 金 金六百五拾六圓七拾錢

第一項 繰越 金 金六拾貳圓九錢

第二項 財產收入 金五百九拾四圓六拾壹錢

歲入合計金六百五拾六圓七拾錢

歲出

第一款 恩賜 金 金六百五拾六圓七拾錢

第一項 公債證書買入代 金六百五拾六圓七拾錢

歲出合計金六百五拾六圓七拾錢

郡部 第五號議案部 明治三十八年度東京府郡部救恤資金歲入歲出

豫算書……………可決

歲入

第一款 救恤資金 金千參百九圓四拾參錢

第一項 繰越 金 金八百九拾五圓六拾六錢

第二項 財產收入 金四百拾參圓七拾七錢

歲入合計金千參百九圓四拾參錢

歲出

第一款 救恤資金 金千參百九圓四拾參錢

第一項 公債證書買入代 金千參百九圓四拾參錢

歲出合計金千參百九圓四拾參錢

郡部
第六號議案部

明治三十八年度東京府郡部學資金歲入豫算書……可決

歲入

第一款 學資 金八拾貳圓貳拾貳錢

第一項 財產收入 金八拾貳圓貳拾貳錢

歲入合計金八拾貳圓貳拾貳錢

郡部
第七號議案部

明治三十八年度東京府郡部衛生資金歲入豫算書……可決

歲入

第一款 衛生資金 金百五拾壹圓九拾九錢

第一項 財產收入 金百五拾壹圓九拾九錢

歲入合計金百五拾壹圓九拾九錢

郡部
第八號議案部

明治三十七年度東京府郡部歲入歲出追加豫算書……可決

歲入

經常部

第十款 市郡連帶郡部收入額 金貳千四百參拾六圓七拾六錢五厘

第一項 市郡連帶郡部收入額 金貳千四百參拾六圓七拾六錢五厘

經常部合計金貳千四百參拾六圓七拾六錢五厘

臨時部

第一款 繰越金 金參萬八千五百參拾圓五錢

第一項 前年度繰越金 金參萬八千五百參拾圓五錢

第二款 國庫補助金 金千圓

第一項 市町村傳染病豫防補助費補助金 金千圓

臨時部合計金參萬九千五百參拾圓五錢

歲入總計金四萬千九百六拾六圓八拾壹錢五厘

歲出

第五章 府會の行動 明治三十七年の府會

經常部

第三款 土木費 金九千貳百五拾七圓

第二項 治水堤防費 金九千貳百五拾七圓

水害復舊工事費

第三款 市郡分賦郡部負擔額 金貳萬九百五拾五圓貳拾九錢六厘

第一項 市郡分賦郡部負擔額 金貳萬九百五拾五圓貳拾九錢六厘

經常部合計金參萬貳百拾貳圓貳拾九錢六厘

臨時部

第二款 土木費 金千七百七拾貳圓

第一項 道路橋梁費 金千七百七拾貳圓

水害ノ爲墜落又ハ流失ノ橋梁架換費

第三款 郡市町村土木補助費 金參千九百八拾貳圓五拾壹錢九厘

第一項 道路橋梁費補助 金參千百參拾四圓八拾九錢四厘

水害復舊土木費補助

第二項 治水堤防費補助 金八百四拾七圓六拾貳錢五厘

第五款 市町村傳染病豫防補助費 金六千圓

第一項 市町村傳染病豫防補助費 金六千圓

臨時部合計金壹萬千七百五拾四圓五拾壹錢九厘

歲出總計金四萬千九百六拾六圓八拾壹錢五厘

郡部 諮問第一號 府費補助道及里道ヲ府費支辨道ニ編入ノ件………答申議決

府費支辨道ニ編入路線

名	稱	延長	幅	面積	現在道路資格及名稱	路	線
萩新田火葬場道		一、二〇〇〇 <small>間</small>	二〇 <small>間</small>	二、四〇〇〇 <small>坪</small>	補助道 深川道・境川道・ 火葬場道	南葛飾郡砂村地内深川區境ヨリ境川道ニ接續 シ左折シテ同郡大島町地内小名木道ニ合ス	
町屋火葬場道		七八〇〇	二〇	一、五六〇〇	里道	北豐島郡南千住町地内三河島道ヨリ分岐シ同 郡三河島村火葬場ニ至ル	
藤澤往還		六六〇〇	二〇	一、三三〇〇	補助道 藤澤往還	南多摩郡町田地内甲州往還ヨリ分岐シ南村 地内ニ於テ神奈川縣ニ接ス	
赤十字社病院道		三九七〇	四〇	一、五六八〇	里道	豐多摩郡澁谷村地内赤十字社道ノ終點ヨリ澁 谷村大字下澁谷馬引澤道ニ合ス	

右道路ハ交通頻繁ニシテ他ノ支辨道ト同一ノ資格アルモノト認ムルニ依リ之ヲ
府費支辨道ニ編入セントス

右其ノ會ノ意見ヲ問フ

(答申) 諮問ニ同意ス

郡部
諮問第二號

府費支辨假定縣道ヲ里道ニ補助里道ヲ假定縣

道ニ編入ノ件……………答申議決

假定縣道ヲ里道ニ編入路線

道名	郡名	延長	幅	坪數	路	線
日野往還	南多摩	九,〇〇三 ^間 五	一 ^間 五	一三,五〇五 ^坪 三	南多摩郡鶴川村神奈川縣境ヨリ同村小野路多摩村七生村ヲ經日野町ニテ甲州街道ニ達ス	

右道路ハ神奈川縣管内ヲ通シテ交通少ナク縣道ノ資格ナキニ至レルモノト認ムルニ依リ之ヲ里道ニ編入セントス

里道ヲ假定縣道ニ編入路線

道名	郡名	延長	幅	坪數	路	線
藤澤往還	南多摩	六六〇 ^間	二 ^間	一,三三〇 ^坪	南多摩郡町田村地内甲州往還ヨリ分岐シ南村地内ニ於テ神奈川縣ニ達ス	

右道路ハ交通頻繁ニシテ他ノ縣道ト同一ノ資格アルモノト認ムルニ依リ之ヲ假定縣道ニ編入セントス

定縣道ニ編入セントス

右其ノ會ノ意見ヲ問フ

(答申) 諮問ニ同意ス

明治三十六年度東京府郡部歳入歳出決算書……………承認

府費支辨道若クハ補助道ニ編入又ハ變更ニ關スル建議案……………可決

建議案

第一 中央東線八王子停車場道、東海道線蒲田停車場道、總武線龜戶停車場道、但調査ノ上最近國縣道ト府費支辨道ト連絡スルモノ

右ハ調査ノ上明治三十八年度ヨリ府費支辨道線ニ編入セラレタキコト

第二 交通機關ノ發達ニ伴ヒ現在ノ府費支辨道線又ハ補助道線トシテ變更ヲ要シ又ハ新規編入ノ必要アル線路

右ハ調査ノ上明治三十八年通常府會へ諮問セラレタキコト

(理由) 第一項記載ノ道路ハ既ニ其停車場道ヲ開通シ交通頻繁ナルニ拘ラス雨雪ノ節ハ泥濘ノ爲メ非常ノ惡路トナリ不便尠ナカラス然ルニ之カ修理ヲ町村若クハ私道ニ委シ置ク

ハ不當ナルヲ以テ府費支辨道ニ編入シ三十八年度ヨリ修理ノ必要ヲ認ム
第二項ノ事ハ既ニ昨年モ決議シタル如ク近來交通機關ノ發達ニ伴ヒ交通ノ方向ヲ變スル
モノ之アルヘク依テ交通ノ緩ナルモノハ之ヲ省キ頻繁ナルモノハ之ヲ編入シ又其他編入
ヲ要スル事實アルモノハ之ヲ調査シ其宜ニ從ヒ之ヲ加除シテ以テ府政ノ衡平ヲ保タレン
コトヲ望ムニ由ル(議員井上吉之助發議)

第八節 明治三十八年の府會

臨時府會

本會は、府會議員定數改正案議定の爲めに招集せられたので、明治三十八年二月
十三日午後一時四十二分に開會し、即日議事終了して、午後二時三分閉會した。
開會に際し、知事男爵千家尊福は、次の開會辭を述べた。

「本日ヲ以テ臨時府會ヲ開キマス、當會ニ提出スル議案ハ人口ノ増加ニ依テ府會議員ノ定員
ニ異動ヲ生シマシタ、從ツテ選舉區ニ於テ選舉スヘキ議員數ニ増減ヲ起シマシタカラ、之カ
議決ヲスルノ必要カアリマシテ議案ヲ提出シタヤウナコトデアリマス、テ宜シク御審議ア
ルヤウニ希望イタシマス(明治三十八年府會運記録)」
齋藤議長は、次の件を報告した。

官發第一九號

來ル十三日ヨリ開會ノ第一回臨時府會ノ議事參與員別紙ノ通ニ有之候此段及
通牒候也

明治三十八年二月十日

東京府知事 男爵 千 家 尊 福

東京府會議長 齋藤孝治殿

(別紙)

東京府書記官山 田 新一郎
東京府參事官澤 田 牛 麿
東京府屬 鷺 見 金 三 郎

府縣制第四十九條ニ依リ明治三十八年第一回臨時府會ノ議事參與ヲ命ス
次に齋藤議長は、特に議員の起立を求めて、本年一月一日旅順開城に付 天機を
奉伺し、同月三日 第三皇孫殿下御誕生あらせられたるに付賀表と賀牋とを捧呈
したる旨、謹んで議場に報告した。

(天機奉伺書)

謹テ旅順ノ陷落ヲ
奉祝シ恭ク

天機ヲ伺ヒ奉ル

右御執奏被成下度候

明治三十八年一月七日

東京府會議長

齋

藤

孝

治

宮内大臣 子爵 田中光顯殿

(賀表)

謹奉賀

皇孫御降誕

右御執奏被成下度候

明治三十八年一月七日

東京府會議長

齋

藤

孝

治

宮内大臣 子爵 田中光顯殿

(賀牋)

謹奉賀

親王殿下御降誕

右言上被成下度候

明治三十八年一月七日

東京府會議長

齋

藤

孝

治

東宮大夫 齋藤桃太郎殿

又議長は旅順開城に就いては、乃木攻圍軍司令官に對して、次の感謝狀を贈呈したる旨を報告した。

露國ノ強ヲ宇内ニ稱スルヤ久シ而シテ近時專ラカヲ東亞ノ經營ニ傾ケ延ヒテ我ニ對スル亡狀亦一日ニ非ス昨春ニ至リ我
天皇陛下六師ヲ發シ膺懲ノ義ヲ舉ケ給フ閣下大命ヲ奉シ旅順ニ向フ蓋シ旅順ハ天嶮ノ地加フルニ人工ノ精ヲ以テシ敵ノ全力ヲ注キ據守シ以テ極東ニ於ケル策源地ト爲セシ所其得喪ハ全露威信ノ消長ニ關ス故ニ守將ハ最モ智勇ヲ兼スルモノヲ選ミ士卒ハ最モ精銳ナルモノヲ萃メ防禦ノ術至ラサルナシ嚮ニ閣下ノ降伏ヲ諭スヤ之ヲ峻拒シ抵抗益頑強ヲ逞シ自ラ誇リ以テ難攻不落ト稱セリ想フニ之ニ對スル攻撃ノ困難ナル意料ノ外ニ在リ苦戰激闘言語ニ絶シ壯烈慘憺今古ニ比ナク攻圍軍ノ忠勇絶倫ナルハ列國ノ齊ク歎頌シタル所ナリ今茲元旦ニ至リ遂ニ敵帥ヲシテ城ヲ開キ要塞地區ノ全部ヲ以テ我ニ致スノ己ムヲ

得サルニ至ラシム嗚呼偉ナル哉是レ固ヨリ我
 天皇陛下ノ聖德ニ因ルト雖モ閣下及麾下將卒諸氏ノ堅忍不撓ニ非ラスンハ亦
 曷ソ能ク此ニ臻ランヤ赫々タル偉勳ハ永ク國民ノ銘肝スル所ニシテ所謂前ニ
 光リ後ニ垂ルルモノナリ吾人ハ宜ク如何シテ之ヲ謝スヘキヤ我東京府下壯丁
 ノ名譽アル閣下ノ麾下ニ參加スルヲ得タルハ亦府民ノ特ニ光榮トスル所ナリ
 茲ニ謹テ蕪辭ヲ呈シ閣下及攻圍軍將卒諸氏ノ忠勇ヲ奉謝シ併テ將來ノ健康ヲ
 祈ル

明治三十八年一月九日

東京府會議長 齋藤孝治再拜

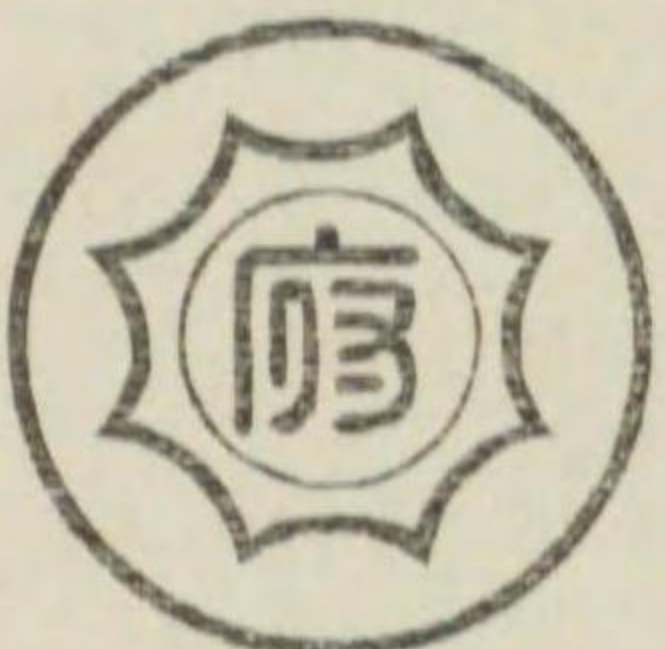
乃木旅順攻圍軍司令官閣下

議長は、副議長田村光顯が、一月二十九日府會議員を辭職し、自然副議長が闕員となつたので、其の補闕選舉を行ふことを會議に諮つたところ、杉原榮三郎の發議で次會迄延期することに決した。又前例に依り會議の同意を得て、中村平三郎・杉原榮三郎を會議録署名議員に選定した。

知事提出の議案は、原案の通り決したので、最後に議長は豫ての協議に基き、府會議員の徽章を製作したから配付する旨を告げ、尙ほ次の佩用心得をも報告した。

東京府會議員徽章佩用心得

一 東京府會議員ノ徽章ヲ左ノ如ク定ム



二 徽章ハ議席ニ列スル時ハ勿論議員トシテ參列スル式場若ハ送迎訪問等ノ場

合ニ佩用スルモノトス

三 徽章ヲ失ヒタルトキハ議長ニ届出其ノ承認ヲ得テ新ニ之ヲ受クルコトヲ得

但シ調製費トシテ金壹圓ヲ辨償スルモノトス

四 退任、辭任、死亡等ノ場合ニハ徽章ヲ返付スヘシ

明治三十八年二月

東京府會

(註) 議員徽章は、今回を最初として爾後、定期改選毎に新調配付する例となつて居るが、佩用心得の箇條は其の時々協議に依て、必しも其の儘適用しない

議事終了を告げたので、千家知事は、閉會の辭を述べた。

議案

府臨第一號議案 府會議員數改正ノ件……………可決

議決摘要

府臨第一號議案 府會議員數改正ノ件……………可決

府縣制第五條ニ依リ各選舉區ニ於テ選舉スヘキ府會議員數左ノ通改ム

- 麴町區選舉區 二人
- 神田區選舉區 三人
- 日本橋區選舉區 三人
- 京橋區選舉區 四人
- 芝區選舉區 四人
- 麻布區選舉區 一人
- 赤坂區選舉區 一人
- 四谷區選舉區 一人

- 牛込區選舉區 二人
- 小石川區選舉區 二人
- 本郷區選舉區 三人
- 下谷區選舉區 四人
- 淺草區選舉區 六人
- 本所區選舉區 三人
- 深川區選舉區 三人
- 荏原郡選舉區 二人
- 豐多摩郡選舉區 二人
- 北豐島郡選舉區 二人
- 南足立郡選舉區 一人
- 南葛飾郡選舉區 二人
- 西多摩郡選舉區 二人
- 南多摩郡選舉區 二人
- 北多摩郡選舉區 二人

府會議員協議會

府會議員の協議會は固より法律上に認められた正式の府會ではないが、當局者も其の會合に出席して説明の勞を採る等、非公式ながら之を重要視するのは事實であり、且其の協議決定の事項は、正式の府會に建議案又は動議等となつて現はれるのであるから重要な協議事項は其の梗概を記載する次第である。

明治三十八年九月五日日露媾和條約に慚焉たらざる一團が、日比谷公園に國民大會を開催したところ、取締上に關して警察官と群集との間に衝突を惹起し、多數の死傷者を出すに至りしのみならず、其の結果は、電車の焼打となり、騷擾は彌が上に擴大して、同月五日から七日に渉る全市警察署交番等の焼打といふ未曾有の大騷擾事件を演出した。其の間に於ける警察官の處置に對して、世論は囂々として之を批難し、府會議員市會議員等が數次協議會を開いて之に善處する方法を凝議した結果、竟に、警視廳廢止論を提唱するに至つた。

一、明治三十八年九月八日府會議事堂議員控室に於て齋藤府會議長の招集に基く議員協議會を開き、本月五日から七日の三日間に渉る都下の騷擾事件に付て協議の結果次の通決議し、尙秩序回復委員を選定した。

決議

東京府内ノ秩序回復ニ至ル迄人民ノ身體財産ヲ保護スル爲メ要所毎ニ屯所ヲ設ケ普ク

衛兵ノ配置アラシムコトヲ東京府知事ヨリ衛戍總督ニ交渉セラレンコトヲ希望ス

○ 今回ノ椿事ニ關シ東京府民ノ被リタル燒失建物ノ損害ヲ調査シ尙ホ秩序回復ヲ速カナラシムル爲メ委員十五名ヲ置ク

○ 吾等府會議員有志者ハ今回ノ騷擾タルヤ全ク警視廳ノ處置宜シキヲ得サルヨリ發生シタルモノト認ムルヲ以テ之ニ要スル警察費ハ之カ協賛ヲ與ヘサルモノトス

(議決) 暫時保留

秩序回復委員

- | | |
|----------|---------|
| 委員長齋藤 孝治 | 杉原 榮三郎 |
| 谷岡 慶治 | 成島 菊次良 |
| 秦源 祐 | 山崎 塊一 |
| 高島 磯五郎 | 中村 平三郎 |
| 小林 好愛 | 關 戶 金三郎 |
| 鈴木 亮藏 | 徳岡 梅吉 |
| 齋藤 鐵太郎 | 井田 忠信 |

一、九月十九日府會議事堂議員控室に於て府會議員協議會を開き、次の通決議した。而して千家知事は説明の爲め臨席す。

決議

本月五日ヨリ七日ニ渉ル都下ノ騷擾ニ際シ警視廳ハ之レカ鎮壓ヲ爲サントスルニ當リ警察力ヲ極度ニ暴用シ無辜ノ良民數百名ヲ殺傷スル等名狀スヘカラサル慘狀ヲ露出セリ是レ畢竟當局者ノ重大ナル過失ニシテ前警視總監(安立綱之)ハ其責ヲ負ヒ辭職シタリト雖モ其當時ニ於ケル指揮者若クハ指揮ヲ受ケタル者ノ中殊更ニ警察力ヲ濫用シタル者ニ對シテハ未タ何等ノ處分ナキカ如シ宜ク速ニ其不法行爲ヲ檢舉シ嚴ニ處罰セラレシコトヲ望ム

又指揮者又ハ指揮ヲ受ケタル者ノ中稀ニハ警察ノ本分ヲ盡シタル者アリト謂フ右等ノ者ニ對シテハ相當ノ賞與アランコトヲ望ム

右ハ速ニ警視總監(關清英)ニ於テ實行セラレンコトヲ望ム

右決議ス

この決議は、知事を経て警視總監に傳致した。

一、九月二十八日議員控室に於て、府會議員協議會を開き、次の通り決議及選舉した。

決議

東京府會議員有志協議會ハ警視廳ヲ廢止シ警察制度ノ根本的改善ヲ期スルコト
之カ實行ノ爲メ委員十五名ヲ設ク

秩序回復委員ハ解任スルモノトス(井田忠信外十六名提出)

右決議に依り齋藤議長(座長)の指名にて左の通選定し、尙府會市部會郡部會の議長は委員に加はることゝなつた。

警視廳廢止及警察制度改善ニ關スル委員

府會議長	齋藤孝治	市部會議長	杉原榮三郎
郡部會議長	秋本喜七	沼田辰五郎	
相川尙清	酒井泰		
谷岡慶治	水町猪三郎		
山崎林次郎	成島菊次良		
松見文平	中里民平		
井田忠信	大森清禎		
村田權次郎	堀親篤		

小島官吾

袴田瀧三郎

(附記) この警視廳廢止及警察制度改善に關する委員は、東京辯護士會警視廳廢止實行委員並東京市會同主査委員と合同し、警視廳廢止期成同盟會を組織す。又府市聯合委員會を開き、警視廳廢止の儀に就き内務大臣に意見書を呈出し及貴衆兩院に請願することゝなつた。

この意見書及請願書は、正式に通常府會の決議を経た。

一、十二月十八日府會議員協議會に於て、次の各委員を設くるに決し、齋藤議長が夫々指名選定した。これは、將來各種委員を設置するに至つた濫觴である。

警視廳廢止實行委員

沼田辰五郎	相川尙清
徳岡梅吉	田中吉右衛門
谷岡慶治	水町猪三郎
山崎林次郎	小磯金藏
松見文平	吉田金太郎
井田忠信	大森清禎
村田權次郎	岡村善五郎

小島官吾

右の外府會市郡部會の議長は、當然委員に加はることに決した。

警務委員

齋藤孝治	杉原榮三郎
瀬沼伊兵衛	成島菊次良
酒井泰	高島磯五郎
關戸金三郎	
巢鴨病院ニ關スル委員	
袴田瀧三郎	齋藤鐵太郎
日下部三之介	伊藤祐治
杉原榮三郎	

通常府會

本會は、明治三十八年十一月二十七日午後二時十分に開會し、會議五日間に涉り、十二月十八日午後五時議事終了閉會した。

開會の當初、知事男爵千家尊福は、次の開會辭を述べた。

「諸君 本日ヲ以テ、通常會ヲ開設イタシマスカ、本會ニ提出スル議案ハ三十九年度歳入歳出豫算其他ノ議案デアリマスカ、各議案ノ理由ハ議案ニ添付シタル説明書ニ讓リマシテ、茲ニ省略ヲ致シテ置キマス、テ豫算又ハ議案中ニ付イテ重モナル一、二ヲ舉ケマスレハ工藝學校、女子師範學校附屬小學校、蠶病豫防事務所等ノ建築費デアリマス、其外ニ第三中學校敷地購入、感化院補助耕地測量等ノ費用デアリマス、又本年度ノ追加豫算トシマシテ市部ニ於テ警察廳舎建築費ノ議案ヲ提出イタシマシタノテ、右等ノ豫算議案ニ付キマシテハ十分審議ヲ遂ケラレマシテ適當ノ決議アラシコトヲ望ミマス(明治三十八年府會速記録) 齋藤議長は、先づ次の事項を報告した。

官發第二六二號

來ル二十七日ヨリ開會ノ通常府會市部會郡部會ノ議事參與員別紙ノ通ニ有之候此段及通牒候也

明治三十八年十一月二十四日 東京府知事 男爵 千家 尊 福

東京府會議長 齋藤孝治殿

(別紙)

- 東京府事務官 山田 新一郎 東京府事務官 岡 五郎
- 東京府事務官 澤田 牛麿 東京府屬 鷺見金三郎
- 東京府屬 竹内 順吉 東京府屬 久保義三郎
- 東京府屬 武藤 文吾 東京府屬 澁谷 元良
- 東京府屬 佐藤 襄 東京府屬 高橋德太郎
- 東京府技手 王 供阿久 東京府技手 土屋 直一

府縣制第四十九條ニ依リ明治三十八年通常府會市部會郡部會ノ議事ニ參與ヲ命ス

- 警視 川上 親晴 警視 松 井 茂
- 警視 黒金 泰義 警察醫長 栗本 庸勝
- 警視廳技師 奥貫 恭助 警視屬 長澤 誠之助
- 警視廳技手 大富 達丙 警視廳警部 森 英 雄
- 警視屬 田村 鉞次郎

府縣制第四十九條ニ依リ明治三十八年通常府會市部會郡部會ノ議事ニ參與ヲ

囑託ス

一發第五五七號

府會議員左記ノ通異動候條此段及報告候也

明治三十八年十一月二十七日 東京府知事 男爵 千家 尊 福

東京府會議長 齋藤 孝 治 殿

(註) 増員當選山崎塊一外六名、死亡一名、辭職一名、補缺當選二名であつて、詳細は第一卷に掲載したので茲に省略する。

議長は、本年三月奉天大會戰の大捷、同五月日本海々戰の大捷に付、天機を奉伺し、其の他議長に於て取計つた事項を、次の覺書を以て報告した。

報 告

本年二月(臨時府會後府會閉會中客年通常會ノ節ノ議決ニ依リ府會ヲ代表シ議長ニ於テ取計ヒタル事項左ノ如シ

一三月奉天附近ノ會戰大捷ニ付 天機ヲ奉伺シ且大山滿洲軍總司令官へ感謝狀ヲ贈呈セリ

一五月十六日議員岩崎宗吉君死去ニ付葬儀ノ際弔詞ヲ朗讀シタリ(附市部會議長

及郡部會議長モ各弔詞ヲ朗讀シタリ)

一五月三十日日本海々戰大捷ニ付 天機ヲ奉伺シ且東郷聯合艦隊司令長官へ

感謝ノ電報ヲ發シタリ

一十月二十四日上野ニ於ケル東郷聯合艦隊司令長官歡迎會ノ式場ニ於テ歡迎表ヲ捧呈シタリ

左ノ事項中ニハ其都度議員諸君ニ通知シタルモノアリト雖モ爲念一括シテ此ニ報告ス

一五月四日靖國神社臨時大祭

天皇陛下御名代宮殿下御參拜ニ付府會議員一同該社近傍ニ於テ奉迎並奉送シ次テ一同案内ニ從ヒ參拜ス

一七月八日小村全權大使(媾和全權大使)出發ニ付新橋停車場ニ見送ル

一七月二十五日米國陸軍卿タフト氏一行入京ニ付新橋停車場ニ出迎

一十月十一日大不列顛國支那艦隊司令長官ノール大將一行入京ニ付新橋停車場ニ出迎

一十月二十二日聯合艦隊司令長官東郷大將凱旋ニ付新橋停車場ニ出迎

一十月二十七日東伏見宮伏見若宮兩殿下御凱旋ニ付新橋停車場ニ奉迎
一十一月十四日

天皇陛下平和克復奉告ノ爲大廟御參拜ニ付奉送

一十一月十九日 御還幸ニ付奉迎

一十一月二十一日 天機伺ノ爲參内

一十一月二十五日 皇太子殿下大廟御參拜ニ付奉送

出征陸軍旅團長以上ノ凱旋ニ際シテハ議長ニ於テ概ネ停車場ニ出迎ヒ今後モ
引續キ出迎ノ筈

議長は、増員並補闕選舉に當選して、始めてこの議場に出席した竹内久兵衛野末
嘉七日下部三之介山崎塊一青木金七本多銚太郎小島官吾小林好愛の諸議員を議
場に紹介した。

而して府會副議長の補闕選舉を行つたところ、小島官吾が當選した。

從來決算書其他議案中特種のもの、調査委員に附託したことがあつたが、こ
の通常會に於ては、豫算中の各費目を舉げて悉く調査委員に附託した。其の動機
に就ては固より推測し得べき限りでないが、従前は議員の改選に際しても、大多數

は同一の人が再三重選せられ、餘まり顔觸れの變はらぬため、特に委員に附託して、
調査する必要を認めなかつたのも主なる原因の一つと考へる。兎に角本年を始
めとして、豫算議案の殆んど全體を委員附記とするの慣例を馴致した様である。

尙十二月十八日の會議に於て、凱旋の大山滿洲軍總司令官兒玉總參謀長黒木第
一軍司令官與第二軍司令官乃木第三軍司令官野津第四軍司令官川村鴨綠江軍司
令官に對し、歡迎辭を贈呈することを決議した。

この通常會に於て、特筆を要する事項を次に掲げる。

一 警視廳廢止に關する建議並請願の決議

本年九月五日から七日に渉る都下の騷擾事件(世に日比谷騷擾事件と稱するも
の)に對する警視廳の處置が不當であるといふ世上の批難は、日を逐ふて喧しくな
り、遂に、府會市會辯護士會府市政記者團等の團體が聯合して、警視廳廢止の議を提
唱するに至つた。其の協議決定に基いて、この通常府會に於ては、正式に警視廳廢
止に關する建議及貴衆兩議院に對する請願を決議するに至つた。此の議事に於
て、松尾小島井田等の諸議員は孰れも賛成意見を陳べた。

二 機密費の修正削減

井田忠信の動議に依り、三十九年度警察費豫算中機密費參萬圓を半減して壹萬五千圓と修正することを議決した。其の理由は、發議者その他の賛成議員との間に論議の必しも一致せぬ點もあつた様だが、要するに、九月五日以來の騷擾に對し、大に反省を促す爲め削減するといふに外ならない。

しかし、この削減された機密費及之に伴ふ國庫下渡金は、府縣制第八十三條但書に依り、内務大臣の指揮を得て原案を執行した。

十二月十八日議事が終了したので、千家知事は、次の閉會辭を述べ會を閉ぢた。

〔本議會ニ提出イタシマシタ豫算其ノ他ノ議案ハ悉ク本日ヲ以テ議了ニナリマシタ、此數日間非常ノ御奮勵テ速カニ議了ニナリマシタコトハ私ニ於テ最モ喜フコトテコサイマス、茲ニ閉會ヲ告ケマシテ諸君ノ勞ヲ謝シマス(明治三十八年府會速記録二)〕

議案 附建議案

- 府第一號議案 府會市部會郡部會議決事件ノ分別中改正ノ件……………可決
- 府第二號議案 明治三十九年度市部郡部ノ分擔及收入割合……………可決
- 府第三號議案 感化法施行ノ件……………可決
- 府第四號議案 明治三十九年度東京府歳入歳出豫算書……………修正

- 府第五號議案 不動産買受ノ件……………可決
- 府第六號議案 明治三十九年度東京府罹災救助基金歳入歳出豫算書……………可決

- 府第七號議案 明治三十九年度小學校教員恩給基金歳入豫算書……………可決
- 府第八號議案 明治三十九年度東京府小學校教員恩給金歳入歳出豫算書……………可決

- 府第九號議案 明治三十九年度東京府小學校教員加俸資金歳入歳出豫算書……………可決

- 府第十號議案 明治三十九年度東京府教育資金歳入歳出豫算書……………可決

- 府第十一號議案 明治三十九年度東京府師範學校基本金歳入豫算書……………可決

- 府第十二號議案 明治三十九年度東京府女子師範學校基本金歳入豫算書……………可決

- 府第十三號議案 明治三十九年度東京府第一中學校基本金歳入豫算書……………可決

府第十四號議案	明治三十九年度東京府第二中學校基本金歳入 豫算書.....	可決
府第十五號議案	明治三十九年度東京府第三中學校基本金歳入 豫算書.....	可決
府第十六號議案	明治三十九年度東京府第四中學校基本金歳入 豫算書.....	可決
府第十七號議案	明治三十九年度東京府第一高等女學校基本金 歳入豫算書.....	可決
府第十八號議案	明治三十九年度東京府第二高等女學校基本金 歳入豫算書.....	可決
府第十九號議案	明治三十九年度東京府第三高等女學校基本金 歳入豫算書.....	可決
府第二十號議案	明治三十九年度東京府織染學校基本金歳入豫 算書.....	可決

府第二十一號議案	不動産寄附受領ノ件.....	可決
府第二十二號議案	自明治三十九年度 至明治四十一年度東京府教育費繼續年期及支出 方法.....	修正
府第二十三號議案	不動産買受ノ件.....	可決
府第二十四號議案	自明治三十八年度 至明治三十九年度東京府教育費繼續年期及支出 方法.....	可決
府第二十五號議案	明治三十八年度東京府歳入歳出追加豫算書.....	可決
府第二十六號議案	明治三十九年度東京府歳入歳出追加豫算書.....	可決
府第二十七號議案	明治三十九年度東京府歳入歳出追加豫算書.....	可決
	明治三十七年度東京府歳入歳出決算書.....	承認
	警視廳廢止ニ關スル建議案附請願.....	可決
	製作品共進會開設ニ關スル建議案.....	可決
	實業補習學校補助ニ關スル建議案.....	可決
	府立學校建物ニ火災保險ヲ附スルノ建議案.....	可決

議決摘要

府第一號議案 府會市部會郡部會議決事件ノ分別中改正ノ件……可 決

府會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ府會ノ議決ヲ經ヘキ事件ト市部會郡部會ノ議決ヲ經ヘキ事件トノ分別中左ノ通改ム

郡部會議決事件中

勸業費但書害虫驅除豫防ノ下ニ耕地測量ノ四字府吏員費但書檢稅ノ下ニ及耕地測量ノ五字ヲ加フ

府第二號議案 明治三十九年度市部郡部ノ分擔及收入割合……可 決

明治三十二年勅令第二百八十五號第五條ニ依リ明治三十九年度府費ニ關スル市部郡部ノ分擔及收入ノ割合左ノ通定ムルモノトス

市部郡部分擔ノ割合

感化院補助費	市郡	五分五厘
市町村傳染病豫防補助費	市郡	七分三厘

市部郡部分擔割合參考表

科 目	三十九年度市郡割合	割 合	標 準
感化院補助費	市郡五分五厘		救育費ニ準ス
市町村傳染病豫防補助費	市郡七分三厘		人口

府第三號議案 感化法施行ノ件……可 決

明治三十三年法律第三十七號感化法ハ東京府ニ於テハ明治三十九年四月一日ヨリ施行スルモノトス

(原案説明) 府下ニ於ケル不良少年ヲ感化スルニ付感化法施行ノ必要ヲ認ムルニ依リ同法第十四條ニ基キ施行期日ヲ定ムルノ必要アルニ由ル

府第四號議案 明治三十九年度東京府歳入歳出豫算書……修正

歳 入

經常部

第一款 財 産 收 入 金壹萬千百六拾參圓壹錢

第一項 不 動 産 收 入 金五千參百九拾參圓壹錢

第二項 動産收入 金五千七百七拾圓

第二款 國庫下渡金 金參萬千貳百七拾壹圓五拾壹錢四厘

(修正)金貳萬五千貳百七拾壹圓五拾壹錢四厘

第一項 警察費下渡金 金參萬千貳百七拾壹圓五拾壹錢四厘

(修正)金貳萬五千貳百七拾壹圓五拾壹錢四厘

(修正理由) 警察機密費ノ修正削減ニ件フニ由ル

(附記) 機密費ト共ニ原案ヲ執行セラレタリ

第三款 雜收入 金拾貳萬九千五百六拾四圓六拾壹錢五厘

第四款 市郡分賦額 金六拾七萬六千九百七拾參圓五拾參錢七厘

(修正)金六拾八萬九千五百六拾六圓七拾五錢七厘

市部 收入 金四拾七萬七千參百貳拾八圓拾七錢參厘

內 (修正)金四拾八萬八千九拾六圓四拾九錢壹厘

郡部 收入 金拾九萬九千六百四拾五圓參拾六錢四厘

(修正)金貳拾萬千四百七拾圓貳拾六錢四厘

第一項 市郡分賦額 金六拾七萬六千九百七拾參圓五拾參錢七厘

(修正)金六拾八萬九千五百六拾六圓七拾五錢七厘

(修正理由) 歳出ノ修正ニ件フニ由ル

經常部合計金八拾四萬八千九百七拾貳圓六拾七錢六厘

(修正)金八拾五萬五千五百六拾五圓八拾九錢六厘

臨時部

第一款 國庫補助金 金四千七百參拾四圓六拾貳錢五厘

第一項 教育費補助金 金千八百圓

第二項 傳染病豫防費補助金 金貳千九百九圓六拾貳錢五厘

第三項 市町村傳染病豫防費補助金 金貳拾五圓

臨時部合計金四千七百參拾四圓六拾貳錢五厘

歳入總計金八拾五萬參千七百七圓參拾錢壹厘

(修正)金八拾六萬參百圓五拾貳錢壹厘

市部 收入 金六拾壹萬貳千五拾九圓五拾八錢七厘

內 (修正)金六拾壹萬七千五百四拾七圓九拾錢五厘

郡部 收入 金貳拾四萬千六百四拾七圓七拾壹錢四厘

(修正)金貳拾四萬貳千七百五拾貳圓六拾壹錢六厘

歲出

經常部

第一款 警

察 費

金七萬八千七百貳拾八圓七拾八錢五厘

(修正)金六萬參千七百貳拾八圓七拾八錢五厘

第一項 俸給及諸給

金參萬貳百參拾圓八拾五錢

第二項 廳費

金壹萬八千四百九拾七圓九拾參錢五厘

第三項 警察機密費

金參萬圓

(修正)金壹萬五千圓

(修正理由) 原案金額ヲ過當ト認ムルニ由ル(議員井田忠信動議)

(附記) 本項ノ修正議決ニ對シテハ府縣制第八十三條但書ニ依リ内務大臣ノ指揮ヲ得テ原案ヲ執行セラレタリ(之ニ伴フ歲入モ亦同シ)

第二款 警察廳舍修繕費

金五拾圓

第一項 修繕費

金五拾圓

第三款 土木費

金六萬八百參拾八圓

第一項 道路橋梁費

金貳百五拾圓

第二項 治水堤防費

金六萬五百八拾八圓

第四款 府會議諸費

金壹萬貳千九百五拾五圓參拾錢

第一項 府會議費

金八千四百貳拾壹圓參拾錢

第二項 府參事會諸費

金四千五百參拾四圓

第五款 衛生及病院費

金拾萬參千貳百拾九圓拾錢

第一項 衛生諸費

金壹萬七千五百六拾五圓七拾五錢

第二項 巢鴨病院費

金八萬八拾七圓參拾五錢

第三項 檢微費

金五千五百六拾六圓

第六款 教育費

金貳拾六萬貳千六百參拾六圓七拾八錢

(修正)金貳拾七萬千八百七拾圓

第一項 師範學校費

金九萬參百六拾壹圓參拾六錢

(修正)金八萬九千九百六拾九圓五拾八錢

(修正理由) 女子師範學校燒失ノ爲メ之カ再築費豫算府第二十四號議案乃至同第二十六號議案ハ別案ヲ以テ提出セラレ可決シタルヲ以テ備品費並修繕費中不要ニ屬スル分ヲ

削減スルニ由ル(調査委員意見
委員長秦源祐)

- 第二項 中 學 校 費 金九萬貳千貳百壹圓
- 第三項 高 等 女 學 校 費 金四萬貳拾五圓七拾五錢
- 第四項 織 染 學 校 費 金貳萬四百壹圓拾壹錢
- 第五項 工 藝 學 校 費 金六千圓

(修正)金壹萬五千六百貳拾五圓

(修正理由) 府第二十二號議案本校建築費繼續年期支出方法ニ於テ修正アリタル結果トシテ校費中備品費ノ繰上増額ヲ要スルニ由ル(調査委員意見
委員長秦源祐)

- 第六項 學 事 諸 費 金壹萬貳千參百貳圓四拾錢
- 第七項 小學校教員檢定費 金八百六拾五圓拾六錢
- 第八項 留 學 生 費 金四百八拾圓
- 清國留學生費
- 第七款 救 育 費 金七萬參千四百六拾八圓貳拾貳錢
- 第一項 救 助 費 金七萬參千四百六拾八圓貳拾貳錢
- 第八款 諸達書及揭示諸費 金貳千參百參拾六圓七拾六錢
- 第一項 合 達 諸 費 金貳千參百參拾六圓七拾六錢

第九款 勸 業 費 金壹萬八千九百四圓六拾錢

- 第一項 勸 業 會 費 金七百四圓五拾錢
- 第二項 勸 業 諸 費 金參千八百五拾九圓七拾六錢
- 第三項 森 林 經 營 費 金壹萬千八百九拾九圓參拾四錢

(附帶決議)

一本森林經營ハ本府將來ニ涉ル大事業ニ屬スル未曾有ノモノナレハ當局者ハ此際過去粗漫ノ收入案ニ對シ大ニ鑑戒慎重セラルヘシ

一過去經營ノ事績ニ徵スレハ其事業遅々ニシテ甚タ微少ノ感アリ猶進捗スヘキ方途ヲ講究セラルヘシ

一植林上支障ナキ限リハ可成丈伐木ニ充分ノ注意ヲ拂フヲ以テ最モ相當ナリト信ス

一製炭事業ノ如キハ漸次學理ヲ應用セラレタシ

一本森林經營上府吏員ヲシテ他縣ノ森林經營ヲ巡視セシムルハ大ニ機宜ニ適シタルモノト信ス

一本森林經營カ水源ノ涵養國土保安ヲ目的トナセシハ爭フヘカラサル事實ナ

リ然ラハ之レニ附帶シテ多摩川淺川ニ接近スル沿岸ノ山林ニシテ土砂崩壞ノ甚シキ所ヲ調査シ以テ本事業ヲ擴張セサルヘカラスト信ス
一本會ハ如上ノ熱誠ナル希望ヲ表白スルト同時ニ之ニ要スル適當ナル費用ハ敢テ之ヲ辭セサルト信ス(調査委員意見 委員長小島官吾)

第四項 獸疫豫防費 金貳千四百四拾壹圓

第十款 府費取扱費 金四千貳百拾八圓

第一項 金庫諸費 金四千貳百拾八圓

第十款 府廳舎修繕費 金貳千五百五拾六圓四拾錢

第一項 修繕費 金貳千五百五拾六圓四拾錢

第三款 衆議院議員選舉費 金貳百拾圓

第一項 選舉費 金貳百拾圓

第三款 府會議員選舉費 金貳百七拾圓

第一項 選舉費 金貳百七拾圓

第十款 府吏員費 金四萬參千九百六圓貳拾錢

第一項 吏員費 金四萬參千九百六圓貳拾錢

第五款 財産費 金九拾圓

第一項 管理費 金九拾圓

第六款 土地收用費 金百四拾圓

第一項 審查諸費 金百四拾圓

第七款 豫備費 金壹萬圓

第一項 豫備費 金壹萬圓

經常部合計金六拾七萬四千貳拾八圓拾四錢五厘

(修正)金六拾六萬八千參百六拾壹圓參拾六錢五厘

臨時部

第一款 土木費 金九萬千四百八拾八圓

第一項 道路橋梁費 金千七百五拾六圓

第二項 治水堤防費 金八萬九千七百參拾貳圓

第二款 衛生及病院費 金千八百八拾壹圓七拾錢

第一項 巢鴨病院費 金千八百八拾壹圓七拾錢

第三款 教育費 金四萬千五百六拾九圓四拾五錢六厘

第一項 師範學校費 金貳萬參千參百七拾六圓九拾錢

第二項 織染學校費 金四百七拾圓

第三項 高等女學校費 金貳千五百四拾五圓九拾錢

第四項 中學校費 金壹萬五千百七拾六圓六拾五錢六厘

第四款 勸業費 金六千圓

第一項 建築費 金六千圓

第五款 市町村傳染病豫防補助費 金百五拾圓

第一項 市町村傳染病豫防補助費 金百五拾圓

第六款 教育補助費 金千參百圓

第一項 教育補助費 金千參百圓

第七款 勸業補助費 金參千圓

第一項 勸業補助費 金參千圓

東京勸業協會補助

第八款 感化院補助費 金五千圓

第一項 感化院補助費 金五千圓

代用感化院補助費

第九款 教育費本年度支出額 金貳萬九千八百九拾圓

(修正)金四萬貳千貳百五拾圓

第一項 教育費本年度支出額 金貳萬九千八百九拾圓

(修正)金四萬貳千貳百五拾圓

(修正理由) 府第二十二號議案工藝學校建築費繼續年期及支出方法ニ於テ年度割金額修正ノ結果ニ伴フニ由ル

臨時部合計金拾七萬九千五百七拾九圓拾五錢六厘

(修正)金拾九萬千九百參拾九圓拾五錢六厘

歲出總計金八拾五萬參千七百七圓參拾錢壹厘

(修正)金八拾六萬參百圓五拾貳錢壹厘

市部負擔 金六拾壹萬貳千五拾九圓五拾八錢七厘

內 (修正)金六拾壹萬七千五百四拾七圓九拾錢五厘

郡部負擔 金貳拾四萬千六百四拾七圓七拾壹錢四厘

(修正)金貳拾四萬貳千七百五拾貳圓六拾壹錢六厘

府第五號議案 不動產買受ノ件……………可決

北多摩郡立川村

一畑百二十七坪五合

此買受豫定代金百貳拾七圓五拾錢 但一坪ニ付金壹圓

右地所蠶病豫防事務所敷地トシテ買受クルモノトス

府第六號議案 明治三十九年度東京府罹災救助基金歳入

歳出豫算書……………可決

府第七號議案 明治三十九年度小學校教員恩給基金歳入

豫算書……………可決

府第八號議案 明治三十九年度東京府小學校教員恩給金

歳入歳出豫算書……………可決

府第九號議案 明治三十九年度東京府小學校教員加俸資

金歳入歳出豫算書……………可決

府第十號議案 明治三十九年度東京府教育資金歳入歳出

豫算書……………可決

府第十一號議案 明治三十九年度東京府師範學校基本金歳

入豫算書……………可決

府第十二號議案 明治三十九年度東京府女子師範學校基本

金歳入豫算書……………可決

府第十三號議案 明治三十九年度東京府第一中學校基本金

歳入豫算書……………可決

府第十四號議案 明治三十九年度東京府第二中學校基本金

歳入豫算書……………可決

府第十五號議案 明治三十九年度東京府第三中學校基本金

歲入豫算書……………可決

府第十六號議案 明治三十九年度東京府第四中學校基本金

歲入豫算書……………可決

府第十七號議案 明治三十九年度東京府第一高等女學校基

本金歲入豫算書……………可決

府第十八號議案 明治三十九年度東京府第二高等女學校基

本金歲入豫算書……………可決

府第十九號議案 明治三十九年度東京府第三高等女學校基

本金歲入豫算書……………可決

府第二十號議案 明治三十九年度東京府織染學校基本金歲

入豫算書……………可決

府第二十一號議案 不動產寄附受領ノ件……………可決

北多摩郡立川村字下立川千四百八十五番ノ内
一畑三百坪

右地所蠶病豫防事務所敷地トシテ他日其ノ用途ヲ廢止スルトキハ寄附者又ハ其ノ相續人へ無代下付セラレ度旨ヲ以テ寄附ノ儀北多摩郡立川村小川保一ヨリ出願ニ付之ヲ受領スルモノトス

(原案説明) 蠶病豫防事務所現在ノ建物ハ狹隘且粗造ナルヲ以テ新築計畫ノ場合ハ府費ノ幾分ヲ補ハシ爲前記土地ヲ該事務所敷地用ニ寄付シ其ノ用途ヲ廢止シタルトキハ寄附者又ハ其ノ相續人ニ無代下付セラレ度旨出願ニヨリ之ヲ採納シ其ノ敷地ニ充用セントス

府第二十二號議案 自明治三十九年度 東京府教育費繼續年期及

至明治四十一年度 支出方法……………修正

一金拾壹萬六千貳百貳拾圓四拾五錢 教育費中建築費

(修正)金拾壹萬四千五百貳拾壹圓貳拾貳錢五厘

内 譯

金貳萬九千八百九拾圓

明治三十九年度支出額

(修正)金四萬貳千貳百五拾圓

金四萬參千七百七拾八圓九拾五錢

明治四十年年度支出額

(修正)金四萬五千四百五拾五圓九拾七錢五厘

金四萬貳千五百五拾壹圓五拾錢

明治四十一年度支出額

(修正)金貳萬六千八百拾五圓貳拾五錢

右ハ近時我國ニ於ケル機械製作又ハ土木建築ニ屬スル工業教育ハ漸次勃興シ來レリト雖モ工藝品ノ製作ニ關スル技術者ノ養成ニ至テハ未タ教育的施設アルヲ見ス戰後經營ノ一トシテ斯種事業ノ振興ヲ圖ルハ極メテ機宜ニ適スルコトタルノミナラス先ツ都市ニ於テ施設スルノ必要ヲ認ムルニアリ然ルニ其建築費ハ多額ヲ要スルヲ以テ負擔ノ度合ヲ考量シ之ヲ三年ノ繼續事業トシテ其ノ完成ヲ期セントス

(修正理由) 工藝學校ハ急速ニ授業ヲ開始スルノ必要ヲ認ムルト添付ノ參考表中單價ニ修正ヲ加フル餘地アルヲ認メタルニ由ル(調査委員意見 委員長齋藤鐵太郎)

府第二十三號議案 不動産買受ノ件……………可 決

東京市本所區柳原町一丁目

一鐵道用地千四百二十三坪一合九勺

此代金壹萬五千七百七拾六圓六拾五錢六厘一坪金拾圓六拾六錢參厘餘

右地所東京府第三中學校敷地トシテ買受クルモノトス

(原案説明) 敷地擴張ノ必要アルニ由ル

府第二十四號議案 自明治三十八年度東京府教育費繼續年期及

至明治三十九年度 支出方法……………可 決

一金貳萬參千九百參拾貳圓五拾錢 教育費中建築費

内 譯

金九千五百貳拾參圓 明治三十八年度支出額

金壹萬四千四百九圓五拾錢 明治三十九年度支出額

右ハ女子師範學校寄宿舎焼失ニ付新ニ建築ヲ要スルモ三十八年度中ニ工事竣成シ難キニ依リ二ヶ年繼續事業トシテ其完成ヲ期セントス

府第二十五號議案 明治三十八年度東京府歳入歳出追加豫算書…可 決

歲入

經常部

第四款 市郡分賦額 金壹萬八百六拾九圓五拾錢

第一項 市郡分賦額 金壹萬八百六拾九圓五拾錢

經常部合計金壹萬八百六拾九圓五拾錢

歲入總計金壹萬八百六拾九圓五拾錢

歲出

經常部

第六款 教育費 金千參百四拾六圓五拾錢

第一項 師範學校費 金千參百四拾六圓五拾錢

女子師範學校備品費並修繕費

經常部合計金千參百四拾六圓五拾錢

臨時部

第六款 教育費本年度支出額 金九千五百貳拾參圓

第一項 師範學校費本年度支出額 金九千五百貳拾參圓

女子師範學校再築費年度割

臨時部合計金九千五百貳拾參圓

歲出總計金壹萬八百六拾九圓五拾錢

府第二十六號議案 明治三十九年度東京府歲入歲出追加豫算書…可決

歲入

經常部

第四款 市郡分賦額 金壹萬四千四百九圓五拾錢

第一項 市郡分賦額 金壹萬四千四百九圓五拾錢

經常部合計金壹萬四千四百九圓五拾錢

歲入總計金壹萬四千四百九圓五拾錢

歲出

臨時部

第九款 教育費本年度支出額 金壹萬四千四百九圓五拾錢

第一項 師範學校費本年度支出額 金壹萬四千四百九圓五拾錢

女子師範學校再築費年度割

臨時部合計金壹萬四千四百九圓五拾錢

歳出總計金壹萬四千四百九圓五拾錢

府第二十七號議案 明治三十九年度東京府歳入歳出追加豫算書……可 決

歳 入

經常部

第四款 市 郡 分 賦 額 金千圓

第一項 市 郡 分 賦 額 金千圓

經常部合計金千圓

歳入總計金千圓

歳 出

臨時部

第六款 教 育 補 助 費 金千圓

第一項 教 育 補 助 費 金千圓

實業學校補助費

臨時部合計金千圓

歳出總計金千圓

明治三十七年度東京府歳入歳出決算書……………承認

警視廳廢止ニ關スル建議案附請願……………可 決

(建議の大要) 本年四月、政府は地方官々制を改め、地方行政の改良刷新を企圖せられたが、我東京府は、第四部に屬する警察事務を闕如し、別に獨立せる警視廳が在る爲め、同時に刷新の實を見る事が出来なかつたのは遺憾である。

警察事務は、地方行政中最も重要なるものであつて、其の成績如何は、直接人民の利害休戚に影響するところ多大である。然るに、從來警視廳の爲すところを視るに、行動敏活を缺くのみならず、或は威壓に失し、或は人民との間意志の疏通を缺く等、成績實に不良である。曩日の日比谷騷擾事件に於ける警視廳の處置の如きは、其の一例として數ふることが出来る。府民が刷新を希望するの故なしとせぬ。

而して、事の此に至つた原因は、當然地方廳に屬すべき事務を割て獨立の一廳を設け、一府の行政が二途に出る爲め、府民は常に適從する所に迷ひ、運用宜しきを得ないのが其の主因であると考へる。故に現行の警察制度を改良し、行政事務の統一を圖るのが刻下の急務であつて、即ち、警視廳を廢止して其の事務を擧て東京府の所管に移し、以て從來の面目を一新し、一面之に依て被治者の觀念を新にするのが、最も時宜に合ひ府民の切望に副ふ所以である。冀くは、時勢の趨向を察し民意の存する所を酌み、この議を採納して、速に實行の英斷あらむことを望むといふ意見書を内務大臣に提出するので、建議案は全會一致を以て可決した(議員中村平三郎外五十六名發議)。

(請願の概要) 警視廳廢止ニ關スル請願趣旨は、前記建議案と略ぼ同一で、議長名を以て貴族院議長竝に衆議院議長宛各別に差出すものである(議員中村平三郎外五十六名發議)。

製作品共進會開設ニ關スル建議案……………可決

(建議の概要) 政府は、來る明治四十一年を期して第六回内國勸業博覽會を開催せらるゝ趣であるが、今や我邦は、戰捷の結果として國威の發揚に伴ひ、各種産業の興隆發達亦見るべきものがある。此際本府下に大規模の共進會を開いて、産業の發達を助長し、兼て内國博覽會開設の先驅を爲すのは、最も緊切の事と信ずるから、至急調査を遂げて適當の施設を講せられたいと、知事に意見書を呈出するので、案は多數を以て可決した(議員中村平三郎外二十八名發議)。

實業補習學校補助ニ關スル建議……………可決

(建議の概要) 戰後經營の一として、實業の發達を圖るは最も急務とする所である。而して、實業の發達は其の根柢を教育に置かねばならぬ。從來に於ける本府の實業教育は萎靡不振の状態に在るから、此際之が普及振張を企圖するのは、最も緊要の事と信ずる。しかし、俄かに一切の施設を講ずるは、不可能に屬するから、先づ以て公立實業補習學校中設備完全なるものに府費より相當の補助を與へ、以て誘導獎勵の實を示すを適切と認むるから、この議を採納せられたいと、知事に意見書を提出するので、案は多數を以て可決した(議員杉原榮三郎外六名發議)。

府立學校建物ニ火災保險ヲ附スルノ建議……………可決

(建議の概要) 府立學校建物の全部に火災保險を附する必要ありと認むるから、適當の調査を遂げて提案せられたいと、知事に建議するので、案は多數を以て可決した(調査委員意見)。
委員長酒井泰

(附記) 從來府立學校中火災保險を附したのは職工學校のみであつた。他の學校にも火災保險を附すべく提案したことはあるが、個人經濟と異なり官公の財政に於ては、火災保險に附せずして別に積立金を爲す方得策ではあるまいか等の意見があつて、參事會を通過しなかつたところ、本會に於て、特に、火災保險を附するの利害を調査する爲め委員を設け、其の調査の結果この建議案を提出するに至つたのである。

通常市部會

本會は、明治三十八年十一月二十七日午後二時五十五分に開議し、會議五日間に涉り、十二月十八日午後三時二十分議事終了散會した。

杉原議長は、會議の同意を得て、日下部三之介、酒井泰を會議録署名議員に選定した。

市部會に於ても、議案の大部分が調査委員に附託となつた。これは、府會、市部會、郡部會を通じての趨勢である。而して特筆を要する事項は、次の通りである。

警察に關係ある豫算即ち二號議案三十九年度豫算中經常部警察費、警察廳舎修繕費及臨時部警察廳舎建築費並に六號議案三十八年度追加豫算警察署等の再築費は、一讀會に於て一括して調査委員附託となつた。委員の審議した結果に就ては委員長齋藤孝治が、二號議案の警察費外二款及市部第六號議案に就ては之を二讀會に付すべからず、即ち原案を廢棄すべしと決定せる旨報告し、其の理由は委員中の主論者たる松尾清次郎が之を詳述した。即ち二號議案に就ては、曩に府會の決議を以て警視廳廢止を建議し、警察制度の改革を要求したるに拘らず、茲に同廳豫算を議決するは前後矛盾することとなるので、警察費は承認することは出來ぬといふにあり。六號議案に就ては、騷擾事件のため警察署が燒燬された其の責任は警察官に在るから、其の損害及再築費は國庫に於て負擔するのが當然で、府費を以て支辨すべき限でないといふに在つた。之に、小島官吾、青木金七、村田權次郎等が賛意を表した。齋藤孝治は、委員として二號議案に對する少數意見を代表し、少くとも經常部警察費は、之を二讀會に移して審議すべきであるとの趣旨を述べた。

其の理由として、警視廳廢止を建議して其の實現を期すとも、これには相當の期間を要することであり、其の實現に至る迄の間一日も警察機關を缺くことは出來ぬから、相當の所要經費は之を協賛せねばならぬ。廢止の建議とこれが實現される迄の警察費議決とは、嚴に之を區別すべきであると陳べた。之には酒井泰岡村善五郎、田中吉右衛門、長谷川吉次、袴田瀧三郎、秦源祐等が賛成の意見を述べた。採決の結果、市部第二號議案警察費は、委員會の意見たる原案の廢棄論が少數の爲め消滅に歸し、原案の議事を進めて其の可決を見るに至つたが、市部第六號議案警察署等の再築費は、現在民屋等を假用して兎も角も用を辨して居る以上、尙一年度位其の儘忍び得るものと認むるとして結局、委員會の原案廢棄意見に決定した。

議案 附建議案

- 市部第一號議案部 明治三十九年度東京府市部營業稅雜種稅課目課額……………可決
- 市部第二號議案部 明治三十九年度東京府市部歳入歳出豫算書……………修正
- 市部第三號議案部 明治三十九年度東京府市部請願巡查費徵收額……………可決
- 市部第四號議案部 明治三十九年度東京府職工學校基本金歳入豫算書……………可決
- 市部第五號議案部 明治三十九年度東京府市部學資金歳入豫算書……………可決

- 市部第六號議案部 明治三十八年度東京府市部歳入歳出追加豫算書……………廢棄
- 市部第七號議案部 明治三十八年度東京府市部追加家屋稅賦課ノ件……………廢案
- 市部第八號議案部 明治三十八年度東京府市部歳出追加豫算書……………可決
- 市部第九號議案部 明治三十九年度東京府市部歳出追加豫算書……………可決
- 市部第十號議案部 明治三十九年度東京府市部歳入歳出決算書……………承認
- 電車取締ニ關スル建議案……………可決

議決摘要

- 市部第一號議案部 明治三十九年度東京府市部營業稅雜種稅課目課額……………可決

(註) 課目及課額が前年度と同一であるので、掲載を省略する。

- 市部第二號議案部 明治三十九年度東京府市部歳入歳出豫算書……………修正

歲入

經常部

第一款 地租 割 金拾萬八千圓

第二款 營業稅 割 金拾萬八千圓
(地租壹圓二付四拾錢)

第一款 營業稅 金五萬九千七百拾參圓四拾貳錢

第二款 營業稅 金參萬八千九百七拾圓四錢

第三款 營業稅 金貳萬七百四拾參圓參拾八錢

第四款 營業稅附加稅 金參拾貳萬九千八百四拾圓四拾五錢

第五款 營業稅附加稅 金拾九萬千參百貳拾五圓
(國稅額ノ十分ノ一・五)

第六款 營業稅附加稅 金參拾參萬千五百拾四圓參拾七錢五厘

第七款 營業稅附加稅 金參拾四萬四千四百圓五拾五錢
(修正)金參拾四萬四千四百圓五拾五錢

第八款 營業稅附加稅 金參拾參萬千五百拾四圓參拾七錢五厘
(修正)金參拾參萬千五百拾四圓參拾七錢五厘

第九款 營業稅附加稅 金參拾四萬四千四百圓五拾五錢
(修正)金參拾四萬四千四百圓五拾五錢

(修正理由) 歲出ノ修正ニ伴フニ由ル

第六款 財產收入 金千圓

第一款 國庫下渡金 金參拾六萬九千貳百參拾五圓六拾壹錢壹厘

第二款 警察費下渡金 金參拾六萬九千貳百參拾五圓六拾壹錢壹厘

第三款 雜收入 金拾貳萬九百參拾壹圓拾四錢

第四款 市郡連帶市部收入額 金拾參萬四千七百參拾壹圓四拾壹錢四厘

第五款 市郡連帶市部收入額 (修正)金拾貳萬九千四百五拾壹圓四拾壹錢四厘

第六款 市郡連帶市部收入額 金拾參萬四千七百參拾壹圓四拾壹錢四厘

第七款 市郡連帶市部收入額 (修正)金拾貳萬九千四百五拾壹圓四拾壹錢四厘

(修正理由) 聯帶豫算ノ修正ニ伴フニ由ル

經常部合計金百六拾四萬五千九百參拾壹圓四拾壹錢

(修正)金百六拾五萬參千八百九拾七圓五拾八錢五厘

臨時部

第一款 繰越金 金千圓

第一款 前年度繰越金 金千圓

第二款 國庫補助金

金六千六百八拾九圓七拾壹錢七厘

第一項 市町村傳染病豫防補助費補助金

金千六百六拾六圓六拾六錢七厘

第二項 教育費補助金

金貳千五百圓

第三項 警察費補助金

金貳千四百六拾七圓八錢五厘

第四項 警察廳舍建築修繕費補助金

金五拾五圓九拾六錢五厘

臨時部合計金七千六百八拾九圓七拾壹錢七厘

歲入總計金百六拾五萬參千六百貳拾壹圓拾貳錢七厘

(修正)金百六拾六萬五千五百八拾七圓參拾錢貳厘

歲出

經常部

第一款 警察費 金九拾八萬千拾壹圓九拾四錢七厘

第一項 俸給及諸給 金七拾參萬八千六百圓貳拾錢

巡查二千八百八十一人月俸拾四圓此金四拾八萬四千八圓、技手八人月俸參拾圓此金貳千八百八拾圓(汽機汽罐建築等檢查ノ爲本年度新設)書記百八十四人月俸拾參圓此金貳萬八千七百四圓、巡查宿料二千八百八十一人分月額貳圓宛

金六萬九千九百四拾四圓諸備給(消防)八萬四千貳百貳拾圓九拾五錢、巡查給助金四萬九千九百九拾四圓其他手當旅費、惠與等

第二款 廳舍修繕費 金貳拾四萬貳千四百拾壹圓七拾四錢七厘

第一款 警察廳舍修繕費 金六千五百九拾壹圓參拾參錢

第一項 修繕費 金六千五百九拾壹圓參拾參錢

第三款 教育費 金壹萬五千八百貳拾圓九錢

第一項 職工學校費 (修正)金壹萬五千七百八拾圓九錢

第一項 職工學校費 金壹萬五千八百貳拾圓九錢

(修正理由) 火災保險料ノ料率ヲ低減シタルニ由ル(調査委員意見、委員長松見文平)

第四款 府費取扱費 金六千參百貳拾圓

(修正)金六千四百拾圓

第一項 徵收費 金六千參百貳拾圓

(修正理由) 歲入ニ於テ府稅家屋稅賦課豫算額ヲ修正ノ結果市交付金ヲ増スニ由ル

第五款 府吏員費 金貳千九百貳拾五圓

(修正)金貳千八百參拾五圓

第一項 吏員費 金貳千九百貳拾五圓

(修正)金貳千八百參拾五圓

第六款 財產費 金五圓

第一項 管理費 金五圓

第七款 豫備費 金五千圓

第一項 豫備費 金五千圓

第八款 市郡分賦市部負擔額 金六拾壹萬貳千五拾九圓五拾八錢七厘

(修正)金六拾壹萬七千五百四拾七圓九拾錢五厘

第一項 郡市分賦市部負擔額 金六拾壹萬貳千五拾九圓五拾八錢七厘

(修正)金六拾壹萬七千五百四拾七圓九拾錢五厘

(修正理由) 聯帶豫算ノ修正ニ伴フニ由ル

經常部合計金百六拾貳萬九千七百參拾貳圓九拾五錢四厘

(修正)金百六拾參萬五千八百八拾壹圓貳拾七錢貳厘

臨時部

第一款 警察廳舍建築費 金貳千貳百五拾貳圓八拾錢

第一項 建築費 金貳千貳百五拾貳圓八拾錢

第二款 市町村傳染病豫防補助費 金壹萬圓

第一項 市町村傳染病豫防補助費 金壹萬圓

臨時部合計金壹萬貳千貳百五拾貳圓八拾錢

歲出總計金百六拾四萬九千九百八拾五圓七拾五錢四厘

(修正)金百六拾四萬七千四百參拾四圓七錢貳厘

市第三號議案部 明治三十九年度東京府市部請願巡查費徵收額……………可決

一金貳拾壹圓八拾錢 市部巡查一人一ヶ月分

市第四號議案部 明治三十九年度東京府職工學校基本金歲入豫算書……………可決

市第五號議案部 明治三十九年度東京府市部學資金歲入豫算書……………可決

市部 第六號議案 明治三十八年度東京府市部歳入歳出追加豫算書…廢棄

歳入

經常部

第五款 家屋税 金五萬貳千九百八拾四圓七拾錢

第一項 家屋税 金五萬貳千九百八拾四圓七拾錢
(個ニ付四厘)

第七款 國庫下渡金 金貳萬七千九百七拾八圓參拾貳錢

第一項 警察費下渡金 金貳萬七千九百七拾八圓參拾貳錢

經常部合計金八萬九百六拾參圓貳錢

歳入總計金八萬九百六拾參圓貳錢

歳出

經常部

第一款 警察費 金壹萬八千九百五拾圓

第一項 俸給及諸給 金壹萬參千四百五拾圓

第二項 廳費 金五千五百圓

第二款 警察廳舍修繕費 金千參百六拾六圓四拾錢

第一項 修繕費 金千參百六拾六圓四拾錢

經常部合計金貳萬參百六拾六圓四拾錢

臨時部

第二款 警察廳舍建築費 金四萬九千六百貳拾九圓四拾錢

第一項 建築費 金四萬九千六百貳拾九圓四拾錢

臨時部合計金四萬九千六百貳拾九圓四拾錢

歳出總計金六萬九千九百四拾五圓八拾錢

(議決) 廢棄

(廢棄理由) 本追加豫算ノ主位ヲ占ムル警察署警察分署等ノ建築費ハ現在假用セル廳舍ニテ當分差支ナキモノト認ムルニ由ル(調査委員意見 委員長齋藤孝治)

市部 第七號議案 明治三十八年度東京府市部追加家屋稅賦課ノ件…廢棄

明治三十八年度東京府市部追加家屋稅個數一個ノ賦課ニ付キテハ市部ニ屬スルニ付四厘府稅賦課規則第十七條及第二十條ヲ適用セス明治三十九年一月一日ノ現所有建

第五章 府會の行動 明治三十八年の府會

物ヲ標準トシ個數ヲ定メテ其ノ所有者ニ賦課ス

(議決) 廢案

(廢案理由) 府第六號議案追加豫算ノ廢棄ニ伴ヒ自然廢案ニ歸スルモノト議決ス

市部
第八號議案

明治三十八年度東京府市部歲出追加豫算書……………可決

歲出

經常部

第八款 市郡分賦市部負擔額 金七千六百八圓六拾五錢

第一項 市郡分賦市部負擔額 金七千六百八圓六拾五錢

經常部合計金七千六百八圓六拾五錢

歲出總計金七千六百八圓六拾五錢

市部
第九號議案

明治三十九年度東京府市部歲出追加豫算書……………可決

歲出

經常部

第八款 市郡分賦市部負擔額 金壹萬參百七拾四圓八拾四錢

第一項 市郡分賦市部負擔額 金壹萬參百七拾四圓八拾四錢

經常部合計金壹萬參百七拾四圓八拾四錢

歲出總計金壹萬參百七拾四圓八拾四錢

市部
第十號議案

明治三十九年度東京府市部歲出追加豫算書……………可決

歲出

經常部

第八款 市郡分賦市部負擔額 金六百圓

第一項 市郡分賦市部負擔額 金六百圓

經常部合計金六百圓

歲出總計金六百圓

明治三十七年度東京府市部歲入歲出決算書……………承認

電車取締ニ關スル建議案……………可決

(建議の大要) 東京市内の電車は、近時著しく線路を擴張して、其の布設が全市に遍からんとする状態である。之に伴ひ事故の發生亦漸く頻繁となり、停電、衝突等の事故、轢殺、負傷等の惨事が續出し、交通行政上將た又人道上、一日も忽諸に付し難いものがある。當局は十分調査を遂げ、機關軌道車體の検査監督を一層嚴重にし、尙會社を戒飭し機關に屬する技師及車掌運轉手等の監督を嚴にし、以て危險を防止し、交通の安全を保障するの措置を採られんことを希望する旨、内務大臣に意見書を提出するので、建議案は多數を以て可決した(議員松尾清次郎發議)。

通常郡部會

本會は、明治三十八年十一月二十七日午後二時五十七分に開議し、會議四日間に涉り、十二月十八日午後一時四十分議事終了散會した。

秋本議長は、會議の同意を得て、井田忠信、松井寅太郎を會議録署名議員に選定した。この會議最終日の十二月十八日に、秋本議長が議長辭任を届出たので、井田副議長は、之を報告して後任議長の選舉を行ひ、瀨沼伊兵衛が當選した。

議案 附諮問案

第一號 案部	明治三十九年度東京府郡部營業稅雜種稅課目課額……………修正
第二號 案部	明治三十九年度東京府郡部歳入歳出豫算書……………修正
第三號 案部	明治三十九年度東京府郡部請願巡查費徵收額……………可決
第四號 案部	明治三十九年度東京府郡部恩賜金歳入歳出豫算書……………可決
第五號 案部	明治三十九年度東京府郡部救恤資金歳入豫算書……………可決
第六號 案部	明治三十九年度東京府郡部學資金歳入豫算書……………可決
第七號 案部	明治三十九年度東京府郡部衛生資金歳入豫算書……………可決
第八號 案部	郡部恩賜金管理方法中改正ノ件……………可決
第九號 案部	郡部恩賜金ノ利殖金支出ノ件……………可決
第十號 案部	明治三十八年度東京府郡部歳入歳出追加豫算書……………可決
第十一號 案部	明治三十九年度東京府郡部歳入歳出追加豫算書……………可決
第十二號 案部	明治三十九年度東京府郡部歳出追加豫算書……………可決
郡諮問第一號 部	府費支辨道ニ編入及變更ノ件……………答申議決
	明治三十七年度東京府郡部歳入歳出決算書……………承認

議決摘要

郡部 第一號議案 明治三十九年度東京府郡部營業稅雜種稅課目
課額.....修正

雜種稅

一市場

南多摩郡八王子町織物市場 月稅 金四拾五圓
南多摩郡八王子町生絲繭市場 同 金參拾五圓

一法人建物

個數一個ニ付 年稅 〔金拾錢〕ト修正

(修正理由) 他稅トノ權衡上増稅ノ餘地アリト認ムルニ由ル(議員田中新造動議)

(原案說明) 前年度ノ課目課額ニ比シ變更セシモノヲ舉ケレハ市場稅ノ內南多摩郡八王子町織物市場同生絲繭市場ハ近來ノ狀況ニ徴シ減稅シタリ

郡部 第二號議案 明治三十九年度東京府郡部歲入歲出豫算書.....修正

歲入

第一款 地租 經常部 金拾六萬九千四圓

第一項 地租 金拾六萬九千四圓 (地租壹圓ニ付四拾六錢)

第二款 營業稅 金貳萬四千參百貳拾參圓八拾五錢

第一項 商業稅 金壹萬八千七拾四圓八拾七錢

第二項 工業稅 金六千貳百四拾八圓九拾八錢

第三款 雜種稅 金拾六萬貳千七拾九圓貳拾四錢

第四款 營業稅附加稅 金貳萬六千四百貳拾圓

第一款 營業稅附加稅 金貳萬六千四百貳拾圓 (國稅額ノ十分ノ二)

第五款 家屋稅 金八萬五千參百四拾圓五拾壹錢

第一項 家屋稅 金八萬五千參百四拾圓五拾壹錢 (八王子町分七八、七五六圓餘其他ノ各町村分一個ニ付五錢五厘)

第六款 戶數割 金拾壹萬八百拾四圓八拾八錢

第一項 戶數割 金拾壹萬八百拾四圓八拾八錢 (二戶ニ付壹圓五拾八錢)

第七款 財產收入 金參百六拾參圓五拾六錢

第一項 不動產收入 金七拾圓

第二項 動產收入 金四拾參圓五拾六錢

第三項 特別經濟繰入金 金貳百五拾圓

第八款 國庫下渡金 金七萬五千八百貳拾六圓拾六錢

第一項 警察費下渡金 金七萬五千八百貳拾六圓拾六錢

第九款 雜收 入 金五萬七千八百五圓參拾七錢

第十款 市郡連帶郡部收入額 金四萬貳千貳圓參拾五錢

(修正)金四萬千貳百八拾貳圓參拾五錢

第一項 市郡連帶郡部收入額 金四萬貳千貳圓參拾五錢

(修正)金四萬千貳百八拾貳圓參拾五錢

(修正理由) 連帶豫算ノ修正ニ伴フニ由ル

歲入經常部合計金七拾五萬參千貳百五拾九圓九拾貳錢

(修正)金七拾五萬貳千五百參拾九圓九拾貳錢

歲入

臨時部

第一款 繰越金 金千圓

第一項 前年度繰越金 金千圓

第二款 國庫補助金 金參千參百圓

第一項 市町村傳染病豫防補助費補助金 金千圓

第二項 農事試驗場補助金 金貳千參百圓

歲入臨時部合計金四千參百圓

歲入總計金七拾五萬七千五百五拾九圓九拾貳錢

(修正)金七拾五萬六千八百參拾九圓九拾貳錢

歲出

經常部

第一款 警察費 金拾九萬八千八百四圓四拾錢九厘

第一項 俸給及諸給 金拾五萬七千九百貳拾六圓拾錢

巡查六百四十四人月俸拾四圓此金拾萬八千九百九拾貳圓書記七十九人月俸拾

參圓此金壹萬貳千參百貳拾四圓巡查宿料六百四十四人分月額壹圓參拾五錢

此金壹萬四百參拾貳圓八拾錢巡查給助壹萬八百四拾六圓五拾錢其他手當旅

費惠與諸備給等 費 金四萬八百七拾八圓參拾錢九厘

第二款 警察廳舍修繕費 金千四百五拾七圓

第一項 修繕費 金千四百五拾七圓

第三款 土木費 金拾參萬九拾五圓八拾錢

第一項 道路橋梁費 金拾貳萬四千八拾七圓八拾錢

第二項 治水堤防費 金六千八圓

第四款 郡廳舍修繕費 金貳百四拾圓

第一項 修繕費 金貳百四拾圓

第五款 郡役所費 金四萬參千百七拾八圓貳拾錢

第一項 俸給及諸給 金參萬五千五百貳拾五圓八拾錢

書記九十一人月俸拾八圓此金壹萬九千六百五拾六圓視學八人月俸參拾六圓八拾七錢五厘此金參千五百四拾圓其他雇員給旅費退官賜金死亡賜金惠與諸儲給等

第二款 廳費 金七千六百五拾貳圓四拾錢

第六款 救育費 金千六百九拾八圓六拾八錢六厘

第一項 救助費 金千六百九拾八圓六拾八錢六厘

第七款 諸達書及揭示諸費 金拾六圓

第一項 令達諸費 金拾六圓

第八款 勸業費 金壹萬七千八拾六圓貳拾九錢六厘

第一項 農事試驗場費 金壹萬五千六拾八圓七拾參錢六厘

第二項 勸業諸費 金八百六拾五圓

第三項 耕地測量費 金千百五拾貳圓五拾六錢

第九款 府費取扱費 金壹萬五千貳百貳拾六圓

第一項 徵收費 金壹萬五千百四拾六圓

第二項 滯納處分費 金八拾圓

第十款 府吏員費 金四千七百拾參圓

第一項 吏員費 金四千七百拾參圓

第十款 財產費 金七圓參拾錢

第一項 管理費 金七圓參拾錢

第十款 豫備費 金五千圓

第一項 豫備費 金五千圓

第十款 市郡分賦郡部負擔額 金貳拾四萬千六百四拾七圓七拾壹錢四厘

第一項 市郡分賦郡部負擔額 (修正)金貳拾四萬貳千七百五拾貳圓六拾壹錢六厘
金貳拾四萬千六百四拾七圓七拾壹錢四厘

(修正)金貳拾四萬貳千七百五拾貳圓六拾壹錢六厘

(修正理由) 聯帶豫算ノ修正ニ伴フニ由ル

經常部合計金六拾五萬九千七百七拾圓四拾錢五厘

(修正)金六拾六萬貳百七拾五圓參拾錢七厘

臨時部

第一款 警察廳舍建築費 金七百七圓

第一項 建築費 金七百七圓

第二款 土木費 金五萬七千九百六拾七圓

第一項 道路橋梁費 金四萬貳千七百六拾八圓

第二項 治水堤防費 金壹萬五千九拾九圓

第三款 市町村土木補助費 金貳萬參千七百四拾七圓

第一項 道路橋梁費補助 金壹萬四千五百九圓

第二項 治水堤防費補助 金六百八拾圓

第三款 塚 糞 補助 金八千五百五拾八圓

第四款 衛生及病院補助費 金千七百四拾圓

第一項 病院補助費 金千七百四拾圓

第五款 市町村傳染病豫防補助費 金六千圓

第一項 市町村傳染病豫防補助費 金六千圓

第六款 勸業費 金參拾參圓

第一項 農事試驗場費 金參拾參圓

第七款 勸業補助費 金四千百圓

第一項 勸業補助費 金四千百圓

府農會補助四千圓、實業練習生補助百圓

第八款 町村警備補助費 金百拾圓

第一項 町村警備補助費 金百拾圓

臨時部合計金九萬四千四百四圓

歲出總計金七拾五萬參千五百七拾四圓四拾錢五厘

(修正)金七拾五萬四千六百七拾九圓參拾錢七厘

郡部 第三號議案部 明治三十九年度東京府郡部請願巡查費徵收額……可決

一金貳拾壹圓拾錢 郡部巡查一人一ヶ月分

郡部 第四號議案部 明治三十九年度東京府郡部恩賜金歲入歲出豫算書……可決

郡部 第五號議案部 明治三十九年度東京府郡部救恤資金歲入歲出豫算書……可決

郡部 第六號議案部 明治三十九年度東京府郡部學資金歲入豫算書……可決

郡部 第七號議案部 明治三十九年度東京府郡部衛生資金歲入豫算書……可決

郡部 第八號議案部 郡部恩賜金管理方法中改正ノ件……可決

郡部ニ屬スル恩賜金管理方法中左ノ通改ム

第二條中「利子ハ」下ニ「慈惠救濟事業ニ對シ支出スルノ外之ヲ」ヲ加ヘ第四條中「東京府郡部ノ施設ニ係ル」ヲ削除ス

郡部 第九號議案部 郡部恩賜金ノ利殖金支出ノ件……可決

郡部恩賜金ノ利殖金ヲ市郡連帶支出ノ割合ニ依リ普通經濟へ繰入レ東京府代用感化院補助費トシテ支出スルモノトス

郡部 第十號議案部 明治三十八年度東京府郡部歲入歲出追加豫算書……可決

歲入

臨時部

第一款 繰越金 金壹萬貳千百五拾壹圓六拾四錢五厘

第一項 前年度繰越金 金壹萬貳千百五拾壹圓六拾四錢五厘

臨時部合計金壹萬貳千百五拾壹圓六拾四錢五厘

歲入總計金壹萬貳千百五拾壹圓六拾四錢五厘

歲出

經常部

第三款 市郡分賦郡部負擔額 金參千貳百六拾圓八拾五錢

第一項 市郡分賦郡部負擔額 金參千貳百六拾圓八拾五錢

經常部合計金參千貳百六拾圓八拾五錢

臨時部

第一款 土木費 金四千五百六拾圓

第一項 道路橋梁費 金四千五百六拾圓

第二款 郡市町村土木補助費 金四千參百參拾圓七拾九錢五厘

第三項 以糶費補助 金四千參百參拾圓七拾九錢五厘

臨時部合計金八千八百九拾圓七拾九錢五厘

歲出總計金壹萬貳千五百五拾壹圓六拾四錢五厘

郡部
第十一號議案

明治三十九年度東京府郡部歲入歲出追加豫算書……可決

歲入

臨時部

第一款 繰越金 金四千參拾四圓六拾六錢

第一項 前年度繰越金 金四千參拾四圓六拾六錢

臨時部合計金四千參拾四圓六拾六錢

歲入總計金四千參拾四圓六拾六錢

歲出

經常部

第三款 市郡分賦郡部負擔額 金四千參拾四圓六拾六錢

第一項 市郡分賦郡部負擔額 金四千參拾四圓六拾六錢

經常部合計金四千參拾四圓六拾六錢

歲出總計金四千參拾四圓六拾六錢

郡部
第十一號議案

明治三十九年度東京府郡部歲出追加豫算書……可決

歲出

經常部

第三款 市郡分賦郡部負擔額 金四百圓

第五章 府會の行動 明治三十八年の府會

第一項 市郡分賦郡部負擔額 金四百圓

經常部合計金四百圓

歲出總計金四百圓

郡部 諮問第一號

府費支辨道ニ編入及變更ノ件……………答申議決

府費支辨道ニ編入及變更路線

名稱	延長	幅	現在道 路資格	編入變更 ノ別	路
大久保往還	六〇七 <small>間</small>	二 <small>間</small>	二里道	編入	豐多摩郡内藤新宿町淀橋町ニ於テ青梅街道(俗稱指差横丁)ヨリ分岐シ大久保村ニ於テ百人道ニ至ル
御廐往還	八〇	二	二里道	編入	豐多摩郡内藤新宿町ニ於テ甲州街道ヨリ分岐シ中ノ橋ヲ渡リ舊玉川上水路ニ沿ヒテ千駄ヶ谷村支辨道ニ至ル
青山往還	一、二三四	二七	補助道	編入	豐多摩郡代々幡村大字代々木ニ於テ甲州街道ヨリ分岐シ澁谷村大字上澁谷天神橋道ニ至ル
目白停車場往還	二〇	四	里道	編入	北豐島郡高田村ニ於テ清戸道ヨリ分岐シ目白停車場ヲ經テ再ヒ清戸道ニ至ル
堀江往還	一、五〇〇	一五	補助道	編入	南葛飾郡葛西村三角渡船場ヨリ千葉縣界猫實渡船場ニ至ル
金町停車場往還	二五五	三	里道	編入	南葛飾郡金町村ニ於テ陸前濱街道ヨリ分岐シ金町停車場ニ至ル

吉祥寺停車場往還	一九三	四	里道	編入	北多摩郡武藏野村ニ於テ五日市道ヨリ分岐シ吉祥寺停車場ニ至ル
小川停車場往還	二五六	三	里道	編入	北多摩郡小平村ニ於テ川越道ヨリ分岐シ小川停車場ニ至ル
裁判所往還	一八六	三	里道	編入	南多摩郡八王子町馬乘六十番地先ヨリ裁判所ニ至ル
中野往還	三、五八九	二	支辨道	變更	南多摩郡八王子町大字横山ニ於テ埼玉往還ヨリ分岐シ七邦通ヲ經テ堺村ニ至ル線路同郡同所字八幡ニ於テ甲州街道ヨリ分岐シ堺村字關戸神奈川縣界ニ至ルニ變更

府費補助道編入路線

名稱	延長	幅	現在道 路資格	路
谷中道	三〇 <small>間</small>	二 <small>間</small>	二里道	在原郡世田ヶ谷村大字世田ヶ谷ニ於テ大藏道ヨリ分岐シ同村内世田ヶ谷道ニ至ル
練馬道	一、五〇〇	二五	里道	北豐島郡下練馬村字中宮ニ於テ埼玉道ヨリ分岐シ上板橋村川越街道ニ至ル
吉川中道	九七〇	二	里道	南足立郡綾瀬村ニ於テ吉川中道ヨリ分岐シ五兵衛橋ヲ渡リ吉川道ニ至ル
山入道	一、〇五〇	二	里道	南多摩郡元八王子村ニ於テ佐野川往還ヨリ分岐シ恩方村ヲ經テ川口村大字山入ニ至ル

右道路ハ近來地方生産物ノ増加スルニ隨ヒ交通頻繁ヲ加ヘ他ノ支辨道及補助道ト同一ノ資格アルモノト認ムルニ依リ前記ノ通之ヲ編入若ハ變更セントス
右其ノ會ノ意見ヲ問フ

(答申) 諮問ノ趣旨ニ同意ス

明治三十七年度東京府郡部歳入歳出決算書……………承認

第九節 明治三十九年の府會

第一臨時府會

本會は、主として博覽會開催に關する諸案件附議の爲めに開かれたので、明治三十九年四月五日午後二時十五分に開會し、即日議事が終了して、午後三時三十二分閉會した。

劈頭に知事男爵千家尊福は、次の開會辭を述べた。

「諸君 本日ヲ以テ臨時府會ヲ開會イタシマス、本會ニ提出スル議案ハ東京勸業博覽會竝ニ一府九縣ノ聯合共進會ニ係ル豫算テアリマス、一府九縣聯合共進會ハ本年ハ山梨縣ニ於テ開催スルコトニナツテ居ツテ、其理由ハ豫算ニ附ケテ置キマシク説明書ニ於テ御承知ニナルヤウニ致シタイ、東京勸業博覽會ノコトハ昨年ノ通常會ニ於キマシテ當府會ヨリ滿場一致ヲ以テ建議ニナリマシク、其建議ニ基キマシテ調査ノ上茲ニ豫算ヲ提出スル運ヒニナリ

マシクヤウナコトテ、此勸業博覽會ハ早晚東京ニ於キマシテ萬國博覽會若クハ内國勸業大博覽會ヲ開設ニナル時機モ到來スルテアラウト存シマス、テ是カ準備トシテモ速カニ開設イタシマスノハ必要タラウト考ヘマス、殊ニ戰後ノ實業ノ發展ヲ計ルカ爲ニハ獎勵上最モ必要ノコトテアラウト考ヘマス、故ニ明年即チ四十年ノ三月ニ此博覽會ヲ開設イタシタイト云フ見込ヲ以テソレ、計畫ヲ立テマシテ豫算ヲ提出イタシクヤウナ次第テアリマス、只規模カ或ハ小ニ致シマシテ府民ノ意ヲ充タスニ足ラヌ點カアリハ致シマス、マイカト深ク憂慮ヲ致スコトテアリマス、一方ニハ府民ノ負擔ノ程度如何ヲ考ヘ、又一方ニハ明年ノ三月ヨリ開設イタスツモリテアリマス、カラ之カ設備ヲ爲スノ間モ至ツテ短イコトテアリマス、故ニ已ムヲ得ス提出イタシマシクヤウナ如キ規模ヲ以テ開設スルコトニ致シマシクヤウナ次第テアリマス、或ハ諸君ノ建議ノ趣旨ヨリ考ヘマス、レハ今一層進シタル廣大ナ規模ヲ以テ開設スル方カ府民ノ意ヲ充タシ遺憾ナキ次第テアラウト考ヘマス、テ今回提出ノ案ニ對シマシテハ諸君ノ遺憾トセラシル點モ少ナカラヌコトテアラウト存シマス、カ、前申述ヘマシタルヤウナ次第テ此案ヲ提出イタスコトテアリマス、カラ十分ニ御審議ヲ遂ケラレマシテ速カニ可決アラムコトヲ希望イタシマス(明治三十九年府會速記録)

而して齋藤議長は、次の事項を報告した。

午官發第九〇號

來ル五日ヨリ開會ノ第一回臨時府會市部會郡部會ノ議事參與員別紙ノ通ニ有之候此段及通牒候也

明治三十九年四月四日

東京府知事

男爵 千家

尊福

東京府會議長 齋藤孝治殿

(別紙)

東京府事務官 山田新一郎

東京府事務官 大城戸宗重

東京府屬 鷺見金三郎

東京府屬 久保義三郎

東京府屬 武藤文吾

東京府技手 王供阿久

府縣制第四十九條ニ依リ明治三十九年第一回臨時府會市部會郡部會ノ議事ニ
參與ヲ命ス

午一發第八三三號

府會議員左記ノ通異動候條此段報告候也

明治三十九年四月五日

東京府知事

男爵 千家

尊福

東京府會議長 齋藤孝治殿

辭職

青木

金七

補闕當遷

大木

宗保

次に議長は會議の同意を得て、會議錄署名議員に中村平三郎・杉原榮三郎を選定した。

最後に博覽會委員設置規程が決定したに就ては、直ちに委員並同補充員の選舉を行はれたいと、知事より要望したので、指名推選を以て、次の通選定した。

東京勸業博覽會委員

齋藤孝治

杉原榮三郎

瀬沼伊兵衛

酒井泰

袴田瀧三郎

成島菊次良

野末嘉七

大木金兵衛

南川福藏

中村平三郎

大森清禎
小林好愛

同補充員

松見文平

高島磯五郎

沼田辰五郎

松尾清次郎

相川尙清

伊藤祐治

議案

府臨第一號議案 東京勸業博覽會委員設置規程……………可決

府臨第二號議案 東京勸業博覽會委員費用辨償額及其支給方法……………可決

府臨第三號議案 市部郡部ノ分擔及收入割合中改正ノ件……………可決

府臨第四號議案 明治三十九年度東京府歳入歳出追加豫算書……………可決

府臨第五號議案 不動産讓渡ノ件……………可決

議決摘要

府臨第一號議案 東京勸業博覽會委員設置規程……………可決

府縣制第七十七條ニ依リ東京勸業博覽會委員設置規程左ノ通定ムルモノトス

第一條 明治四十年三月ヨリ開設スル東京勸業博覽會ニ關スル事務ノ爲臨時ニ

勸業博覽會委員十二名ヲ置ク

第二條 勸業博覽會委員ハ東京府會ニ於テ選舉ス

府會ハ六名ノ補充員ヲ選舉ス

委員中闕員アルトキハ補充員ノ中ニ就キ之ヲ補闕ス其ノ順序ハ投票數ニ依リ

投票同數ナルトキハ年長者ヲ取り同年月日ナルトキハ抽籤ニ依ル

補闕員ハ前任者ノ殘任期間在任ス

第三條 勸業博覽會委員ノ任期ハ明治三十九年四月ヨリ博覽會事務終了ニ至ル

マテトス

(原案説明) 明治四十年三月ヨリ開設スル東京勸業博覽會ハ戰後ノ實業發展上至大ノ關係アル
ノミナラス首都ニ於ケル施設トシテ遺憾ナキヲ期スル爲臨時ニ博覽會委員ヲ置キ之カ事務ニ
當ラシメントス依テ本案ヲ提出セリ

府臨第二號議案 東京勸業博覽會委員費用辨償額及其支

給方法……………可決

府縣制第九十四條ニ依リ東京勸業博覽會委員費用辨償額及其ノ支給方法左ノ通定ムルモノトス

第一條 委員ニハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償トシテ月額手當ヲ給シ尙旅行ノ場合ニ於テハ旅費ヲ支給ス

月額手當及旅費ノ額ハ別表ニ依ル

第二條 委員ノ就職其ノ月十五日以前退職辭職失職十六日以後ナルトキハ全月分其ノ就職十六日以後退職辭職失職十五日以前ナルトキハ半月分死亡ノトキハ全月分ノ月額手當ヲ支給ス

第三條 旅費ハ順路ニ依リ汽車旅行ニハ哩數ニ應シ汽車賃ヲ其ノ他ノ旅行ニハ陸路旅行トシテ里數ニ應シ車馬賃ヲ支給ス

汽車賃及車馬賃ハ旅行ノ種類毎ニ路程ヲ合算シテ之ヲ支給ス但シ一位未滿ノ端數ハ切捨トス

第四條 宿泊料ハ夜數ニ應シ日當ハ日數ニ應シ之ヲ支給ス汽車十哩未滿陸路六

里未滿ノ旅行ニハ日當ヲ支給セス但シ宿泊シタルトキハ宿泊ノ數ニ應シ日當ヲ支給ス

前項ノ場合ニ於テ汽車旅行ト陸路旅行ト相跨ルトキハ哩數ヲ里數ニ換算シテ其給否ヲ定ム

第五條 旅行中私事ノ爲迂路ヲ通過シタルトキハ順路ノ行程ニ應シ汽車旅行ハ一日二百哩陸路旅行ハ一日十二里詰トシ其日數ヲ計算ス但シ汽車旅行ト陸路旅行ト相跨ルトキハ各其ノ路程十二分ノ一ヲ以テ一時間ノ行程トシ一日ノ旅行ヲ十二時間トス
前項計算上ヨリ生スル一日未滿ノ端數ハ之ヲ一日トス

月 額 手 當	旅				費
	汽車賃 ニ一里付	車馬賃 ニ一里付	宿泊料 ニ一夜付	日 當 ニ一日付	
貳 拾 五 圓	五 錢	貳 拾 錢	貳 圓	五 拾 錢	

(原案説明) 勸業博覽會委員ノ設置ニ伴ヒ費用辨償額ノ支給ヲ要スルニ由ル

府臨第三號議案 市部郡部ノ分擔及收入割合中改正ノ件……………可決

明治三十二年勅令第二百八十五號第五條ニ依リ明治三十九年度府費ニ關スル市部郡部ノ分擔及收入割合中左ノ通改ムルモノトス

市部郡部分擔ノ割合

勸業費ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

勸業費ノ内勸業博覽會費	郡市	郡市	九九分一厘厘	九九分一厘厘
勸業費ノ内共進會費	郡市	郡市	三六分九厘厘	三六分九厘厘

市部郡部收入ノ割合

雜收入ノ次ニ左ノ三項ヲ加フ

雜收入ノ内勸業博覽會收入	郡市	郡市	九九分一厘厘	九九分一厘厘
雜收入ノ内共進會收入	郡市	郡市	三六分九厘厘	三六分九厘厘
勸業博覽會費寄付金	郡市	郡市	九九分一厘厘	九九分一厘厘

(原案説明) 歳入出豫算ノ追加ニ伴ヒ分擔及收入ノ割合ヲ定ムルノ必要アルニ由ル

市部郡部分擔割合參考表

科	目	三十九年度市郡割合	割合	標準
勸業費ノ内	勸業博覽會費	郡市 九九分一厘厘	三分ノ一ハ出品點數三分ノ一ハ出品價格三分ノ一ハ戸數ヲ準トシ市部ハ戸數ノ二倍トス	
共進會費	共進會費	郡市 三六分九厘厘	半額ハ出品點數半額ハ戸數	

市部郡部收入割合參考表

科	目	三十九年度市郡割合	割合	標準
雜收入ノ内	雜收入ノ内	郡市 九九分一厘厘	歳出當該科目ノ割合ニ依ル	
勸業博覽會收入	勸業博覽會收入	郡市 九九分一厘厘		
共進會收入	共進會收入	郡市 三六分九厘厘		
勸業博覽會費寄付金	勸業博覽會費寄付金	郡市 九九分一厘厘		

府臨第四號議案 明治三十九年度東京府歳入歳出追加豫算書…可決

歳入

經常部

第三款 雜收入 金四千百五拾貳圓

第五章 府會の行動 明治三十九年の府會

第九項 勸業博覽會收入 金四千五百五拾貳圓

入場料構内貸地料

第四款 市郡分賦額 金貳拾參萬貳千貳百六拾七圓六拾五錢

第一項 市郡分賦額 金貳拾參萬貳千貳百六拾七圓六拾五錢

經常部合計金貳拾參萬六千四百拾九圓六拾五錢

臨時部

第二款 寄付金 金拾萬四千圓

第一項 勸業費寄付金 金拾萬四千圓

東京勸業博覽會費寄付金

臨時部合計金拾萬四千圓

歲入總計金參拾四萬四百拾九圓六拾五錢

市部收入 金參拾萬五千五百九拾壹圓參拾貳錢壹厘

內 郡部收入 金參萬四千八百貳拾八圓參拾貳錢九厘

歲出

經常部

第九款 勸業費 金八萬六千貳拾圓四拾參錢

第一項 勸業會費 金八萬六千貳拾圓四拾參錢

東京勸業博覽會費七萬九千九百九拾四圓五拾參錢、聯合府縣共進會費六千貳拾五圓九拾錢

第十款 府吏員費 金六千貳百七拾圓五拾錢

第一項 吏員費 金千九百八拾六圓五拾錢

東京勸業博覽會委員費用辨償金、陳列館其他建築工事監督吏員費
經常部合計金九萬貳千貳百九拾圓九拾參錢

臨時部

第四款 勸業費 金貳拾四萬八千百貳拾八圓七拾貳錢

第一項 建築費 金貳拾四萬八千百貳拾八圓七拾貳錢

東京勸業博覽會建築費

臨時部合計金貳拾四萬八千百貳拾八圓七拾貳錢

歲出總計金參拾四萬四百拾九圓六拾五錢

內 市部負擔 金參拾萬五千五百九拾壹圓參拾貳錢壹厘

郡部負擔 金參萬四千八百貳拾八圓參拾貳錢九厘

(附帶決議) 博覽會事業ノ遂行上已ムヲ得サル豫算ノ追加更正等ハ其議決ヲ參事會ニ委任スルモノトス(議員杉原榮三郎發議)

府臨第五號議案 不動産讓渡ノ件……………可決

東京勸業博覽會建築物ノ内

一 陳列館 一棟

此建築見積價格七萬四千八百八拾圓

一 奏樂堂 一棟

此建築見積價格千五百圓

右ハ東京勸業博覽會閉鎖後不用ニ屬シタルトキハ帝室博物館ハ無償讓渡スルモノトス

(原案説明) 東京勸業博覽會開設ノ爲帝室博物館所屬上野公園第三號及第五號館ハ取毀ヲ要スルニ付其ノ代償トシテ無償讓渡セムトス

第一臨時市部會

本會は、明治三十九年四月五日午後二時四十分ニ開議し、即日議事終了、午後二時五十七分散會した。

杉原議長は、會議の同意を得、日下部三之介、酒井泰を會議録署名議員ニ選定した。

議案

市臨第一號議案部

明治三十九年度東京府市部歳入歳出追加豫算書……………可決

市臨第二號議案部

明治三十九年度東京府市部追加地租割家屋稅賦課

方ノ件……………可決

議決摘要

市臨第一號議案部

明治三十九年度東京府市部歳入歳出追加豫算

書……………可決

歳入

經常部

第一款 地租 割 金壹萬六千貳百圓

第二項 地租 割 金壹萬六千貳百圓

(地租壹圓ニ六錢)

第五章 府會の行動

明治三十九年の府會

第四款 營業稅附加稅 金六萬參千七百七拾五圓

第一項 營業稅附加稅 金六萬參千七百七拾五圓
(國稅額ノ十分ノ〇・五)

第五款 家屋稅 金拾四萬五千七百七圓九拾貳錢五厘

第一項 家屋稅 金拾四萬五千七百七圓九拾貳錢五厘
(個ニ付壹錢壹厘)

第九款 市郡連帶市部收入額 金拾萬參千六百九拾八圓參拾貳錢

第一項 市郡連帶市部收入額 金拾萬參千六百九拾八圓參拾貳錢

經常部合計金參拾貳萬九千參百八拾壹圓貳拾四錢五厘

歲入總計金參拾貳萬九千參百八拾壹圓貳拾四錢五厘

歲出

經常部

第八款 市郡分賦市部負擔額 金參拾壹萬八千七百九拾壹圓參拾貳錢壹厘

第一項 市郡分賦市部負擔額 金參拾壹萬八千七百九拾壹圓參拾貳錢壹厘

經常部合計金參拾壹萬八千七百九拾壹圓參拾貳錢壹厘

歲出總計金參拾壹萬八千七百九拾壹圓參拾貳錢壹厘

市臨第二號議案部

明治三十九年度東京府市部追加地租割家屋稅

賦課方ノ件……………可決

明治三十九年度東京府市部追加地租割地租壹圓家屋稅個數一個ニ付壹錢壹厘前半期ノ賦課ニ

付キテハ府稅賦課規則第一條第十七條ヲ適用セス地租割ハ明治三十九年五月一

日現在ノ地租額ニ依リ納租者ニ家屋稅ハ明治三十九年五月一日現所有建物ヲ標

準トシ個數ヲ定メテ其所有者ニ賦課ス

(原案説明)地租割家屋稅ノ追加ヲ要スル爲之カ賦課ニ係ル規定ヲ設クルノ必要アルニ由ル

第一臨時郡部會

本會は、明治三十九年四月五日午後二時五十八分に開議し、即日議事終了、午後三時散會した。

瀨沼議長は、會議の同意を得て、井田忠信、松井寅太郎を會議錄署名議員に選定した。

議案

第五章 府會の行動

明治三十九年の府會

郡部
臨第一號議案

明治三十九年度東京府郡部歳入歳出追加豫算書……………可決

議決摘要

郡部
臨第一號議案

明治三十九年度東京府郡部歳入歳出追加豫算書……………可決

歳入

經常部

第十款 市郡連帶郡部收入額 金壹萬四百五拾參圓六拾八錢

第一項 市郡連帶郡部收入額 金壹萬四百五拾參圓六拾八錢

經常部合計金壹萬四百五拾參圓六拾八錢

臨時部

第一款 繰越金 金貳萬六千七百七拾四圓六拾四錢九厘

第一項 前年度繰越金 金貳萬六千七百七拾四圓六拾四錢九厘

臨時部合計金貳萬六千七百七拾四圓六拾四錢九厘

歳入總計金參萬六千六百貳拾八圓參拾貳錢九厘

歳出

經常部

第三款 市郡分賦郡部負擔額 金參萬六千六百貳拾八圓參拾貳錢九厘

第一項 市郡分賦郡部負擔額 金參萬六千六百貳拾八圓參拾貳錢九厘

經常部合計金參萬六千六百貳拾八圓參拾貳錢九厘

歳出總計金參萬六千六百貳拾八圓參拾貳錢九厘

第二臨時府會

本會は、明治三十九年十一月一日午後一時三十五分に開會し、議事が二日間に涉り、翌二日午後二時三十七分終了閉會した。

開會の初め知事男爵千家尊福は、次の開會辭を述べた。

〔諸君 本日ヲ以テ臨時府會ヲ開會イタシマス、當會ニ提出スルハ三十九年度追加豫算テアリマシテ、其費目ノ重ナルモノヲ申シマスレハ警察費土木費勸業費救育費等テアリマス、是等ノ追加ヲ要スル理由ハ議案ニ添付シタル説明書ニ記載シテ置キマシタカラ別ニ此席ニ於テハ詳シク申述ヘマセヌ、宜シク御審議ノ上適當ノ決議アラムコトヲ希望イタシマス（明治三十九年府會速記録）

而して齋藤議長は、次の事項を報告した。

午官發第二四一號

第二回臨時府會市部會郡部會議事參與員別紙之通ニ有之候此段及通牒候也

明治三十九年十月二十九日 東京府知事 男爵 千家 尊 福

東京府會議長 齋藤孝治殿

(別紙)

東京府事務官堀 信次 東京府事務官岡 五郎

東京府技師 原 龍太 東京府屬 久保義三郎

東京府屬 武藤文吾 東京府屬 澁谷元良

東京府屬 内野吉次郎 東京府屬 高橋徳太郎

東京府技手 王供阿久 東京府技手 鈴木琢磨

府縣制第四十九條ニ依リ明治三十九年第二回臨時府會市部會郡部會ノ議事ニ

參與ヲ命ス

警視 太田政弘 警視屬 長澤誠之助

府縣制第四十九條ニ依リ明治三十九年第二回臨時府會市部會郡部會ノ議事ニ

參與ヲ囑託ス

午一發第二七二七號

府會議員左記之通異動候條此段及報告候也

明治三十九年十一月一日 東京府知事 男爵 千家 尊 福

東京府會議長 齋藤孝治殿

記

辭職 小島官吾

補闕當選 飯塚仁兵衛

死亡 坂倉謹次郎

補闕當選 曲木如長

死亡 井上吉之助

補闕當選 澁谷龜藏

次に齋藤議長は、今回補闕當選した飯塚曲木澁谷の三議員を議場に紹介し、而して曩に死亡したる井上吉之助坂倉謹次郎兩議員の長逝を悼み、議長名を以て弔詞を贈呈したる旨を報告した。

又議長は會議の同意を得て、會議録署名議員に中村平三郎、杉原榮三郎を選定し、府會副議長が闕員のため補闕選舉を指名推選を以て行ひ、秦源祐が當選した。

付議せられた議案中、非常出水の爲破壊した河岸及堤防の復舊工事費貳拾壹萬餘圓の繼續年期支出案は、流石に金額が巨大であつた關係上、調査委員に附託せられたが、調査の結果は其の已むを得ざることを認めて可決した。

茲に特筆を要することは、氷川橋陥落に關する質問である。議員杉原榮三郎は、「我々議員は、出來得る限り圓滿に協賛の任務を盡さんことを旨とするが、しかし理事者が之に甘んじて、遠慮會釋もなく議案を提出しさいすれば、府會は譯もなく可決するものであると考へ、其の可決された豫算の執行に當つて、工事の監督其他に不行届の事があつたとすれば甚だ遺憾に堪へない。西多摩郡の氷川橋修繕工事が本年三月十六日に竣成を告げたのに、翌四月二十三日俄然陥落した。しかも、人馬の通行頻繁とか或は暴風雨の被害とかいふ、何等特別の原因なくして陥落したものである。この設計竝に監督方法は、如何になされたものであるか、詳細に答辯せられたい。我々は徒に質問を好むものではないが、本件は事態が輕からぬものと信ずるが故に、已むを得ず爰に質問する」と述べた。之に對し番外内野屬は「こ

の氷川橋の當初の設計は、高欄と敷板だけを取換へれば宜しい筈であつたが、尙調査の結果、桁もアーチに故障のあることを發見したから、アーチの一部も修繕することに設計を變更し、是にて最早充分なりと認めて工事を進め竣成したのである。然るに圖らずも、他に發見し得られない穩れた個所に故障が存在した爲め、陥落を見るに至つた。理事者は調査、監督等に相當の注意はしたが、隠れたる瑕疵を發見し得なかつたのは洵に遺憾である云々」と答へ、杉原議員も其れ以上の追窮を見合せ、滿場亦事情餘儀ないものと認めたくめか、別に發言する議員もなかつた。

議案

府臨第六號議案

自治明治三十九年度 至明治四十年年度 東京府土木費繼續年期及支出

方法……………可決

府臨第七號議案

明治三十九年度東京府歳入歳出追加豫算書……………可決

府臨第八號議案

特別會計設置ニ關スル件……………可決

府臨第九號議案

明治三十九年度東京府立第一中學校戰役紀念 獎學金歳入歳出豫算書……………可決

府臨第十號議案

明治三十九年度東京府小學校教員恩給金歳入

議決摘要

歲出追加豫算書……………可決

府臨第六號議案 自明治三十九年度東京府土木費繼續年期及

至明治四十年度……………可決

一金貳拾壹萬八千五百拾六圓 治水堤防費

內 譯

金拾參萬八千六百九拾參圓 明治三十九年度支出額

內

金參萬八千五百四拾六圓 河岸修繕費

金拾萬百四拾七圓 堤防修繕費

金七萬九千八百貳拾參圓 明治四十年年度支出額

內

金四萬四千六百貳拾九圓 河岸修繕費

金參萬五千百九拾四圓 堤防修繕費

右ハ本年七月八月ノ交非常出水ノ爲河岸及堤防ノ破壞甚シキヲ以テ之カ復舊工
事ヲ要スル處本年度内ニ於テ竣工ヲ告ルハ頗ル困難ナルニ依リ之ヲ繼續事業ト
ナシ其ノ竣成ヲ期セントス

府臨第七號議案 明治三十九年度東京府歲入歲出追加豫算書……………可決

歲入

經常部

第二款 國庫下渡金 金八百八拾八圓

第一項 警察費下渡金 金八百八拾八圓

第四款 市郡分賦額 金貳拾萬參千八百參拾九圓貳拾錢

第一項 市郡分賦額 金貳拾萬參千八百參拾九圓

經常部合計金貳拾萬四千七百貳拾七圓貳拾錢

歲入總計金貳拾萬四千七百貳拾七圓貳拾錢

歲出

經常部

第五章 府會の行動 明治三十九年の府會

第一款 警察費 金貳千貳百貳拾圓

第一項 俸給及諸給 金貳千貳百貳拾圓

巡查給與令發布ノ結果一人月額貳圓宛増俸二百二十二分

第六款 教育費 金貳千四百貳圓九拾四錢

第五項 工藝學校費 金參百四拾八圓九拾四錢

第六項 學事諸費 金貳千五拾四圓

第七款 救育費 金貳萬五千圓

第一項 救助費 金貳萬五千圓

第九款 勸業費 金參萬四千五百貳拾六圓貳拾六錢

第二項 勸業會費 金參萬四千五百貳拾六圓貳拾六錢

東京勸業博覽會費

第十款 府吏員費 金千八百八拾五圓

第一項 吏員費 金千八百八拾五圓

水害復舊工事監督吏員費

經常部合計金六萬六千參拾四圓貳拾錢

臨時部

第十款 土木費本年度支出額 金拾參萬八千六百九拾參圓

第一項 治水堤防費本年度支出額 金拾參萬八千六百九拾參圓

府臨第六號議案土木費繼續年期支出案ノ年度割額

臨時部合計金拾參萬八千六百九拾參圓

歲出總計金貳拾萬四千七百貳拾七圓貳拾錢

府臨第八號議案 特別會計設置ニ關スル件……………可決

明治三十七八年戰役紀念生徒獎勵トシテ府立第一中學校生徒保證人總代子爵鍋島直彬外四人ヨリ寄付セシ金員及之ヨリ生スル利子ハ一般經濟ニ編入セス特別會計ヲ設ケテ整理スルモノトス

府臨第九號議案 明治三十九年度東京府立第一中學校戰役

紀念獎學金歲入歲出豫算書……………可決

歲入

第一款 第一中學校戰役紀念獎學金 金千貳百貳拾貳圓五拾錢

第一項 寄 付 金 金千百八拾九圓八拾錢
 第二項 財 産 收 入 金 參拾貳圓七拾錢

歳入合計金千貳百貳拾貳圓五拾錢

歳 出

第一款 第一中學校戰役紀念獎學金 金參拾貳圓七拾錢
 第一項 生徒 獎 勵 費 金參拾貳圓七拾錢

歳出合計金參拾貳圓七拾錢

(原案説明) 三十七八年戰役紀念生徒獎勵トシテ第一中學校生徒保證人惣代ヨリ寄付出願ニ付之ヲ受領シ特別會計ヲ設ケテ保存セントスルニ由ル

府臨第十號議案 明治三十九年度東京府小學校教員恩給金

歳入歳出追加豫算書……………可 決

歳 入

第一款 小學校教員恩給金 金貳千五拾四圓
 第三項 補 充 費 金貳千五拾四圓

歳入合計金貳千五拾四圓

歳 出

第一款 小學校教員恩給金 金貳千五拾四圓
 第一項 恩 給 金 金貳千五拾四圓

退隱料

歳出合計金貳千五拾四圓

第二臨時市部會

本會は、明治三十九年十一月一日午後三時二十六分に開議し、會議二日間に涉り、十一月二日午後二時二十二分議事終了散會した。

杉原議長は、會議の同意を得て、日下部三之介、酒井泰を會議録署名議員に選定した。

議 案

市臨第三號議案部 明治三十九年度東京府市部歳入歳出追加豫算書……………可 決
 市臨第四號議案部 明治三十九年度東京府市部請願巡查費徵收額改正ノ件……………可 決

市部
臨第五號議案

明治三十九年度東京府市部追加地租割家屋稅賦課
方ノ件……………可決

議決摘要

市部
臨第三號議案

明治三十九年度東京府市部歲入歲出追加豫算書……………可決

歲入

經常部

第一款 地租 割 金壹萬八百圓

第一項 地租 割 金壹萬八百圓
(地租壹圓二付四錢)

第五款 家屋稅 金拾七萬貳千貳百圓貳拾七錢五厘

第一項 家屋稅 金拾七萬貳千貳百圓貳拾七錢五厘
(二個ニ付壹錢參厘)

第七款 國庫下渡金 金壹萬六百六拾四圓

第一項 警察費下渡金 金壹萬六百六拾四圓

第八款 雜收入 金貳千五百五拾圓

第九款 市郡連帶市部收入額 金七百八拾壹圓四拾四錢

第一項 市郡連帶市部收入額 金七百八拾壹圓四拾四錢

經常部合計金拾九萬六千五百九拾五圓七拾壹錢五厘

臨時部

第二款 國庫補助金 金五千七百五拾圓

第一項 市町村傳染病豫防補助費補助金 金五千七百五拾圓

臨時部合計金五千七百五拾圓

歲入總計金貳拾萬貳千參百四拾五圓七拾壹錢五厘

歲出

經常部

第一款 警察費 金貳萬八千八百拾圓

第一項 俸給及諸給 金貳萬八千八百拾圓

巡查俸給率改正ニ伴ヒ一人月額貳圓宛宛增俸二千八百八十一人分

第八款 市郡分賦市部負擔額 金拾參萬六百九圓拾貳錢參厘

第一項 市郡分賦市部負擔額 金拾參萬六百九圓拾貳錢參厘

經常部合計金拾五萬九千四百拾九圓拾貳錢參厘

臨時部

第二款 市町村傳染病豫防補助費 金參萬四千五百圓

第一項 市町村傳染病豫防補助費 金參萬四千五百圓

臨時部合計金參萬四千五百圓

歳出總計金拾九萬參千九百拾九圓拾貳錢參厘

市 臨時部
第四號議案部

明治三十九年度東京府市部請願巡查費徵收額

改正ノ件……………可決

明治三十九年十一月以降市部巡查一人一ヶ月金貳拾參圓八拾錢ニ改正スルモノトス

市 臨時部
第五號議案部

明治三十九年度東京府市部追加地租割家屋稅

賦課方ノ件……………可決

明治三十九年度東京府市部追加地租割地租壹圓家屋稅家屋個數一個ノ賦課ニ付テハ府稅賦課規則第一條第十七條第二十條ヲ適用セス地租割ハ明治四十年一月一

日現在ノ地租額ニ依リ納租者ニ家屋稅ハ明治四十年一月一日ノ現所有建物ヲ標準トシ個數ヲ定メテ其ノ所有者ニ賦課ス

第二臨時郡部會

本會は、明治三十九年十一月一日午後三時三十分ニ開議シ、會議二日間ニ涉リテ終了シ、十一月二日午後二時三十四分散會シテ

瀨沼議長は、會議の同意を得テ、會議錄署名議員ニ井田忠信松井寅太郎を選定シ

議案

郡 臨時部
第二號議案部

明治三十九年度東京府郡部歳入歳出追加豫算書……………可決

郡 臨時部
第三號議案部

明治三十九年度東京府郡部請願巡查費徵收額改正ノ件……………可決

郡 臨時部
第四號議案部

明治三十九年度東京府郡部追加地租割家屋稅戶數割賦課方ノ件……………可決

議決摘要

郡部
臨第二號議案部

明治三十九年度東京府郡部歲入歲出追加豫算書…可決

歲入

經常部

第一款 地租 割 金壹萬四千六百九拾六圓

第一項 地租 割 金壹萬四千六百九拾六圓
(地租壹圓二付四錢)

第五款 家屋稅 金參萬千貳百六拾參圓九拾九錢

第一項 家屋稅 金參萬千貳百六拾參圓九拾九錢
(八王子町分二八六三八圓餘其他ノ町村一個ニ付二錢)

第六款 戶數割 金四萬四千八百八拾五圓六拾八錢

第一項 戶數割 金四萬四千八百八拾五圓六拾八錢
(二戶ニ付六拾參錢)

第八款 國庫下渡金 金貳千四百拾六圓

第一項 警察費下渡金 金貳千四百拾六圓

第九款 雜收入 金四百圓

第十款 市郡連帶郡部收入額 金百六圓五拾六錢

第一項 市郡連帶郡部收入額 金百六圓五拾六錢

經常部合計金九萬參千六拾八圓貳拾參錢

臨時部

第一款 繰越金 金壹萬八千圓

第一項 前年度繰越金 金壹萬八千圓

臨時部合計金壹萬八千圓

歲入總計金拾壹萬千六拾八圓貳拾參錢

歲出

經常部

第一款 警察費 金六千四百四拾圓

第一項 俸給及諸給 金六千四百四拾圓

巡查俸給率改正ニ伴ヒ一人月額貳圓宛増俸六百四十四人分

第三款 土木費 金壹萬七千參百四拾九圓

第一項 道路橋梁費 金六千六百參拾六圓

第五章 府會の行動

明治三十九年の府會

第二項 治水堤防費 金壹萬七百拾參圓

第三款 市郡分賦郡部負擔額 金七萬四千百拾八圓七錢七厘

第一項 市郡分賦郡部負擔額 金七萬四千百拾八圓七錢七厘

經常部合計金九萬七千九百七圓七錢七厘

臨時部

第二款 土木費 金貳千七百九圓

第一項 道路橋梁費 金貳千七百九圓

水害復舊土木費

第三款 郡市町村土木補助費 金九千百拾七圓五拾貳錢

水害復舊工事費補助

第一項 道路橋梁費補助 金千百六拾圓八拾錢

第二項 治水堤防費補助 金八百拾圓七拾貳錢

第三項 埝樋費補助 金七千百四拾六圓

臨時部合計金壹萬千八百貳拾六圓五拾貳錢

歲出總計金拾萬九千七百參拾參圓五拾九錢七厘

郡部
臨第三號議案部

明治三十九年度東京府郡部請願巡查費徵收額

改正ノ件……………可決

明治三十九年十一月以降郡部巡查一人一ヶ月金貳拾參圓拾錢ニ改正スルモノトス

郡部
臨第四號議案部

明治三十九年度東京府郡部追加地租割家屋稅

戶數割賦課方ノ件……………可決

明治三十九年度東京府郡部追加地租割地租壹圓家屋稅家屋個數一戶數割個數一個ニハ

左記ノ方法ニ據リ賦課スルモノトス

一 地租割ハ明治四十年一月一日現在ノ地租額ニ依リ納租者ニ賦課ス

家屋稅ハ明治四十年一月一日ニ存在スル建物所有者ニ賦課ス但シ南多摩郡八

王子町ニ係ルモノハ本年度既定ノ該町會議定課額ニ比例シテ之ヲ定ム

戶數割ハ明治四十年一月一日ノ現住戶數ヲ準トシ其ノ各戶ノ等級課額ハ本年

度既定ノ等級課額ニ比例シテ之ヲ定ム